

# 学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **95** 2026  
冬号



Special Feature

理事長・学長からのメッセージ vol.38

医工連携が未来を創る～MSTeC NARAの挑戦～  
フォーラムを開催しました



# Contents

<b>特集</b>	理事長・学長からのメッセージ vol.38	3
	第5回 MBT みんなで守るいのちの映画祭を開催	8
	MBT 研究所だより (第39報)	9
	事務プロジェクト「ナラメドナレッジラボ」活動報告	10
	働き方改革だより	11
	臨床医学講座 教育主任の紹介	12
	先端医学研究支援機構だより	14
	図書館だより	15
	国際交流センターだより vol.22	16
	Topics	18
	看護部の紹介	19
<b>Campus News</b>	令和7年度キャンパスミーティングを開催しました	19
	令和7年度 臨床PBL症例報告会及び優秀賞授与式を執り行いました	20
	「日本女性会議 2025 橿原」に参加しました	21
	神経変性疾患に関わる新たな相分離制御因子を発見	21
	「リボンチャレンジ・ショーケース」「万博リボンチャレンジ・ビジネス・エキスポ」 に MBT 開発成果を展示しました	22
	防災訓練に参加しました	22
	第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会で発表しました	22
	奈良県脳卒中・心臓病等総合支援センター公開講座を開催しました	22
	令和7年度奈良県立医科大学白樺生祭を開催しました	23
	第9回臨床研究 県民公開講座を開催しました	23
	第43回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会の全関西選抜チームで先発投手として出場！ 着物でジャズ今井町 2025 を開催しました	23
	リサーチ・クラークシップでの研究成果が日本血液学会英文誌に掲載されました	24
	よい仕事おこしフェアに出展しました	24
	知事との意見交換会を開催しました	25
	医学部医学科「白衣授与式」を行いました	25
	AVWS に対する革新的診断・治療開発に向けた共同研究を開始	25
	人材交流在宅看護教育プログラムの履修証明書を授与しました	25
<b>Winner Report</b>	第14回日本認知症予防学会学術集会で浦上賞を受賞しました	26
	日本麻酔科学会第71回関西支部学術集会において最優秀演題賞を受賞しました	26
	第29回日本心不全学会 YIA 最優秀賞を受賞しました	26
	第63回 日本癌治療学会学術集会で最優秀演題賞を受賞しました	26
	第66回日本脈管学会学術総会において第4回高安右人賞を受賞しました	27
	SGI2025において Distinguished Oral Presentation Award を受賞しました	27
	第35回日本耳科学会総会で Young Investigator Award を受賞しました	27
	第84回日本公衆衛生学会総会において口演賞を受賞しました	27
	VENTI2025で優秀発表として表彰されました	28
	武田科学振興財団・医学系研究助成に採択されました	28
	生物学的精神医学学会において若手研究者育成プログラム奨励賞を受賞しました	28
	日本生物学的精神医学学会国際学会発表奨励賞を受賞しました	28
	令和7年秋の叙勲を受章されました	29
	第95回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第73回日本化学療法学会西日本 支部総会合同学会学部生セッションにおいて優秀賞を受賞しました	29
	第66回日本児童青年精神医学会総会において優秀発表賞を受賞しました	30
	第20回日本助産学会学術賞を受賞しました	30
	日本臨床麻酔学会第45回大会において小坂二度見記念賞を受賞しました	30
	日本臨床麻酔学会第45回大会において最優秀演題賞を受賞しました	30
	令和7年度 外部資金獲得状況	31
	未来への飛躍基金だより	34
<b>寄附者ご芳名</b>	「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました	35
<b>Information</b>	公開講座情報	36
	メディア掲載情報	36
	編集後記	36

## 12年間ありがとうございました。

過去の思い出を一つ、未来への私の希望を一つお話させていただきたいと思います。

多くの思い出がありますが、強く印象に残っている一つは、安倍元首相が奈良医大で亡くなられた時のことです。ニュースを聞いて3度驚きました。まず安倍元首相が狙撃された、次いで奈良で、そして奈良医大に搬送されるという知らせです。吉川病院長、福島教授が救命活動をされている時、高市早苗自由民主党政調会長（当時）の携帯から私の携帯に電話がかかってきました。電話に出ると、「少し待ってください。岸田首相と代わります。」と言われ、少しの間歩くと音が聞こえて、岸田首相（当時）が電話に出られました。岸田首相に状況を説明したことが昨日のように思い出されます。高市氏とは首相になられてからも連絡をとりあっています。

高市首相に限らず、奈良医大に在職した27年で多くの知己を得ました。政界、官界、経済界の多くの人と親しくさせていただきました。奈良医大で仕事をする上でこれらの方々からの支援を受けることができましたことは大変幸運でした。この関係を嶋緑倫次期理事長・学長に引き継ぎたいと思っています。

未来への希望は、引き継ぐ方々によって奈良医大のブランド力を一段と上げていただくことです。東京医科歯科大学と東京工業大学が統合され誕生した東京科学大学は、昨年12月に10兆円ファンドの恩恵を受ける国際卓越研究大学の認定候補に、東大や京大に先んじて選定されました。医工連携の成果が期待されています。私は、奈良県立医科大学と奈良先端科学技術大学院大学の連携により、奈良科学大学に当たる学術集団を夢見ています。東の東大、西の京大のように、東の東京科学大、西の奈良科学大とならび称されるようになれば奈良医大のブランド力は一気に上がります。

第1段階として奈良医大と奈良先端大によって設立された奈良先端医工科学連携機構(MSTeC NARA)が昨年3月文部科学大臣により大学等連携推進法人の認定を受けました。この法人は全国初の医工連携を目的とした文科省認定の法人です。共同研究活動を活発に行い、12月には「MSTeC NARAの挑戦」フォーラムを両大学からだけでなく、ロボット工学の石黒浩大阪大学栄誉教授、三澤康特命全権大使、信谷和重近畿経産局長など学会、官界、経済界からも登壇いただきました。特に経済界・企業から参加いただいた多くの方に両大学とMSTeC NARAをアピールすることができました。MBTコンソーシアムでできた経済界との絆にMSTeC NARAの絆が加わってより強固な絆になってほしいと思っています。よろしく願い申し上げます。

私からの「理事長・学長からのメッセージ」は今回で最後になります。学長就任以降、多くの方々に支えられてここまで来ることができました。それぞれのプロジェクトにはそれぞれの思い出があります。そのプロジェクトを共に完遂していただいた方々への感謝の思いを胸に、本稿を閉じることにします。

12年間本当にありがとうございました。

## 学長 3 期目後半の主な取り組み

(2023年9月2日～2025年9月1日)

- : 3期目前半までに始めた事業 青字：3期目前半までに行った内容  
黒字：【3期目後半の進展・結果】  
(注) 3期目前半までに完成した事業、継続中だが特記すべきことがない事項は掲載していません。
- : 3期目後半に開始した事業【3期目後半新規】 黒字で掲載
- ★ : 他学ではあまり行われていない、独自のアイデアに基づくユニークな事業や先進的な事業

### 1. 教育

- ★ **後期入試重視による偏差値の上昇**  
【3期目後半の進展・結果】 入試判定基準 A (ベネッセ・駿台データネット) における定員 50 人以上の入試区分の集計において、判定基準が 2024 年度は全国第 3 位、2025 年度は全国第 4 位となった。
- **【3期目後半新規】前期入試の改革**
  - ・一般選抜(前期日程)の選抜方法を令和 6 年度より共通テスト重視・小論文試験の重視を内容とした方法に変更。推薦・後期とそれぞれ異なる入試方式の実施により、多様な人材の入学を促進。
- **【3期目後半新規】「良き医療人」の資質を持った受験生を増加させるための将来を見据えた取組**
  - ・地域の小学生を対象に、シミュレータを活用して基本的な医療内容と手技を体験し、医師・看護師の仕事を理解してもらうシミュレーション型児童医療体験「ホスピタルラボ」を令和 6 年度に初めて開催。
- ★ **海外や国内の有名研究機関での学生実習(リサーチクラークシップ)**  
【3期目後半の進展・結果】 ・(実施実績) 令和 5 年度：海外 8 機関、国内 20 機関、学内 37 教室 令和 6 年度：海外 1 機関、国内 21 機関、学内 45 教室  
・リサーチ後も研究に従事した本学卒業生が、2 つの学会の優秀論文賞を受賞。
- ★ **アントレプレナーシップ育成**  
【3期目後半の進展・結果】 城南信用金庫理事長である川本恭治氏、世界的デザイナーのコシノジュンコ氏に新たに MBT 特命教授に就任いただき、長榮周作氏(パナソニック前会長)、中村勝氏(クオールホールディングス会長)、森雅彦氏(DMG 森精機社長)、梅岡比俊氏(医療法人梅華会理事長)合わせて 6 名の MBT 特命教授・講師による特別講義を実施。
- **臨床実習の充実**
  - ・文部科学省承認済みの米国式医学教育プログラムであるハワイ医学教育プログラム(HMEP)を導入し、ハワイ(米国)式の Clerkship(学生参加型実習)を体験させることを決定し、派遣。
- ★ **英語教育の充実**  
【3期目後半の進展・結果】 英語で行う医学教育の推進
  - ・「英語で学ぶ医学・看護学セミナー」の開催(第 9 回 2023 年 9 月、第 10 回 2024 年 1 月、第 11 回 2024 年 9 月、第 12 回 2024 年 11 月)
  - ・基礎英語力の育成と、個々の学力・志望に応じた指導を両立させつつ、英語教育の質の更なる向上を図るため英語講座を「基礎医学英語」と「実践臨床英語」の 2 科に再編。
- **医学教育分野別評価の受審**  
【3期目後半の進展・結果】 ・2024 年 1 月に評価を受審し、2032 年 1 月末までの認定を得た。
  - ・カリキュラム検討委員会や教育評価委員会など、教育の質向上のための PDCA サイクルを担う体制を整備。
  - ・2 巡目で受けた指摘事項について、3 巡目受審に向けての改善計画を 2024 年 11 月の医学教育分野別評価委員会で構築。
  - ・形成的評価の促進について、臨床実習に 3 種類の形成的評価表(臨床実習形成的評価、mini-CEX、360 度評価)を導入。
- **医学教育モデル・コア・カリキュラムに即した専門教育の実施**  
【3期目後半の進展・結果】 ・「医の探求入門」の科目を設置し、情報リテラシーの授業を導入。
  - ・水平・垂直統合を充実させたカリキュラムを令和 9 年度入学生から実施することを 2024 年 11 月の医学教育分野別評価委員会で決定。
- **教員・学生との対話の機会を充実**  
【3期目後半の進展・結果】 ・キャンパスミーティングを実施し、学生からの要望を受け取り、講義室の机・椅子の更新、コンセント増設など学内設備の充実を図った。また、新キャンパスには自習スペース(ラーニング commons)の確保、学内ネット環境を充実させるなど教育環境の改善に努めた。
- **【3期目後半新規】AI システム医学融合 イノベーションセンター」を設置予定**
  - ・AI やデータサイエンスのめざましい進歩に適応した人材を輩出するため、データサイエンスや数理解析の基礎的知識の習得から医療分野への応用、システム開発に至るまでの一貫した教育・研究を実現するため、「AI システム医学融合イノベーションセンター」を設置することを予定し、2025 年度より基礎医学領域に統計・情報学と臨床数学を統合・再編した「数理 AI 医学講座」と「応用システム医科学講座」を設置。
- **看護学教育分野別認証評価の受審**  
【3期目後半の進展・結果】 ・外部有識者の教育評価を受け、教育内容の質の向上を図るため、日本看護教育評価機構による看護学教育分野別認証評価を 2022 年 10 月に受審し、指摘事項の改善を行い、2025 年 3 月に再評価改善報告書を提出。
- **【3期目後半新規】看護学研究科博士後期課程の設置**
  - ・実践科学としての看護学の深奥を究め、自立して教育・研究を行うことができる高度な能力を有する人材の育成を理念とした看護学研究科博士後期課程が 2023 年度に文部科学省の設置認可を受け、2024 年 4 月から開設。
  - ・2024 年 定員 2 名、志願者 6 名、入学者 3 名 2025 年 定員 2 名、志願者 4 名、入学者 4 名
- **【3期目後半新規】「THE 日本大学ランキング 2025」教育リソース分野で全国第 5 位にランクイン**
  - ・英国の教育専門機関タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)が発表した「THE 日本大学ランキング 2025」において、本学は分野別指標「教育リソース」において全国第 5 位にランクイン。

### 2. 研究

- **研究支援体制の強化**  
【3期目後半の進展・結果】 ・2020 年度に新設した「先端医学研究支援機構」において、URA(リサーチ・アドミニストレーター)、専門技術職員(テクニシャン)、コーディネーターなどの専門人材を段階的に増員し、研究計画の立案支援、外部資金獲得支援、研究機器管理、産学連携の推進など、各段階での支援体制を強化。
- **科研費申請支援**  
【3期目後半の進展・結果】 ・従前から実施している申請書の添削、研究計画調書の公開、申請スケジュール管理ツールの整備、看護学科向け

セミナー、URAによる伴走支援や科研費情報を定期的に発信する「Go for it! KAKEN」ニュースの配信、申請者向けWebページの充実など各種取組を充実。また、外部講師を招いたセミナー開催や、URAの分析に基づく支援策も新たに実施。

・科研費の獲得額が増加。2023年度は、新規と継続を合わせて全国の単科医科大学25大学中、件数で第6位、金額で第9位。単科医科大学のトップは京都府立医科大学で、新規と継続を合わせての採択件数では、2018年に101件の差があったが、2023年には46件差に縮まり、また採択額においては、2012年には2億8000万円、2019年には1億9800万円だったが、2023年には9800万円と大幅に縮まった。10年前は極めて大きな差だったが、特に2019年から急速に差が縮まってきた。

#### ● 奈良県と県内市町村が実施する健康増進事業への協力・連携

【3期目後半の進展・結果】・各種委員会や会議への参画、専門的知見からの助言、ロジックモデルの作成支援、最新の知見に基づいた情報提供、研修会等での講演、健康関連事業の相談指導などを継続的に実施。(年間新規支援組織団体数 2023年度 5件、2024年度 3件、2019年度～2024年度の累計 66件)

#### ● ★ 研究成果の社会還元のため研究者の起業を支援

【3期目後半の進展・結果】・奈良医大発ベンチャー企業設立(6社→8社)

2024年10月 (株)オキシキャリア、2024年12月 NPO法人MBT奈良画像診断・IVR支援ネットワーク

#### ● 【3期目後半新規】研究に関する各種助成事業の創設

・未来への飛躍基金を活用し、2022年度に創設した英語論文校正費用の助成制度を拡充するとともに、新たに海外留学助成制度、APC助成制度を創設。

#### ● 【3期目後半新規】研究基盤の整備

・総合研究棟グランドデザイン策定委員会での検討などを踏まえ、高額機器購入予算を従来の2,000万円から4,000万円に増し、研究設備の強化を図るとともに、研究環境の安全性と効率性の向上のため、Web審査体制の整備や、化学物質管理システムの導入、動物福祉に配慮したIVCラックの導入などを実施。

#### ● 【3期目後半新規】オートファジー・抗老化研究センターの設立

・老化や種々の加齢性疾患抑制の鍵となる細胞内の分解システム「オートファジー」の仕組みを老化や種々の加齢性疾患の治療で実用化するため、基礎・臨床講座との分野横断的な研究体制を構築し、日本の老化研究の永続的な核となることを目的として、オートファジー・抗老化研究センターを2024年4月に設置。

・2024年4月16日に奈良県コンベンションセンターにおいて、2016年にノーベル生理学・医学賞を受賞された大隅良典東京工業大学栄誉教授を招聘して、センター設立記念キックオフシンポジウムを開催。

#### ● 【3期目後半新規】基礎医学者の養成

・2024年2月に基礎研究医養成基本方針を策定し、将来本学が全国的に基礎医学の分野において指導的な役割を果たす人材を輩出することができるよう、基礎医学者の育成に注力することを決定。

・医師免許を取得した後、基礎研究医を目指し、大学院に進む際の支援として「基礎研究医養成修学資金」の貸与を決定。

#### ● 【3期目後半新規】ロボット技術活用地域リハビリテーション研究センターの開設(四条キャンパス)

・ロボット技術の活用によりリハビリテーション治療の効果向上を目指すとともに、医療者・介護者・家族の負担軽減、リハビリテーション資源の格差による「治療機会の不均衡」のシステミック解決につながる研究を行い、地域医療へ貢献することを目的として、社会医療法人平成記念会 平成まほろば病院内に研究センターを2024年4月に設置。

・上記研究センター開設により、四条キャンパス、畝傍山キャンパス以外のキャンパスが合計7カ所となった。

#### ● 【3期目後半新規】「一般社団法人 奈良先端医工科学連携機構」の設立

・新しい技術開発やイノベーション創出のための医学と工学の協働「医工連携」をより推進するため、奈良先端科学技術大学院大学とともに「奈良先端医工科学連携機構」を設立し、2025年3月に文部科学大臣より「大学等連携推進法人」に認定。

・2025年5月 NAISTメディクス研究センター・奈良県立医科大学連携ワークショップを開催。

#### ● MBT関係は総合欄に記載

## 3. 診療

#### ● 医師臨床研修

【3期目後半の進展・結果】・奈良医大マッチング結果：2024年度 100% (51/51名)、2025年度 98.0% (48/49名)

・奈良県全体マッチング結果：2024年度 100% (126 / 126名) 全国1位、2025年度 99.17% (120/121名) 全国2位

・特色ある取組として2025年度開始プログラムから、選択科目の一環として2024年10月に学術交流協定を締結したサンライズジャパンポンペン病院での海外研修を開始。

#### ● 働き方改革への対応

【3期目後半の進展・結果】・2022年9月に策定した医師労働時間短縮計画を修正するなどの手続きを行い、特定労務管理対象機関(B・C-1水準)として2024年4月から3年間の指定を受けた。

・2024年度より追加的健康確保措置として、長時間労働医師に対する面接指導を開始するとともに、面接医に対する手当を創設。

・全診療科において、時間外の勤務体制を整理し、18診療科で宿日直許可取得、12診療科で勤務化に移行して夜勤明けに帰宅する体制を構築。

・救急科医師の時間外・休日労働の時間短縮を進め、高度救急救命センターの機能を継続的に維持していくため、救急救命士の国家資格保有者を対象に、「ホスピタルパラメディック(病院救急救命士)」の採用を2025年度から実施。

・看護師の負担軽減のため、看護職WGにおいて始業前超勤の縮減、一部病棟における障害者雇用へのタスクシフト(ベッドメイク)や夜間看護補助者の導入を実施。

#### ● 【3期目後半新規】高度生殖医療センターの設置

・県内を中心に不妊で苦しむ人々に最新の生殖医療を県内クリニックと連携して提供する「高度生殖医療センター」を2023年10月に設置。

・2024年5月11日に奈良県コンベンションセンターにおいてセンター開設記念シンポジウムを開催。

#### ● 【3期目後半新規】睡眠医療・呼吸管理センターの設置

・睡眠関連疾患を診療科横断・多職種連携で診療を進め、また検査体制を充実させるため「睡眠医療・呼吸管理センター」を2025年9月に設置。

#### ● 【3期目後半新規】附属病院における組織の整備

・コロナ禍で感染症学的重要性が広く認識され、人材育成の必要性が飛躍的に高まっていることから、2023年10月に医学部医学科に感染症内科学講座を設置するとともに、附属病院の感染制御内科を「感染症内科」に名称変更し、感染症センターを廃止。

・医療の質向上、医療安全管理、医療安全教育・研究を行うことを目的とした「医療の質・安全管理センター」を2023年11月に医療安全推進室を改組し設置。また、組織的な医療安全管理体制を構築するため教員を1名増員。

・がん患者への相談等に関する業務を強化することを目的として、中央診療施設に「がん相談支援センター」を2024年4月に設置し、がん患者への相談支援体制を充実

・従前から奈良県肝疾患診療連携拠点病院である本院に、県からの補助金を受けて、「奈良県肝疾患相談センター」として地域の肝疾患診療体制の確保を図るための会議の設置、市町村事業支援、地域への出前講座、奈良県と連携した研修会の開催等の事業を実施してきたが、2024年7月に中央診療施設「肝疾患相談センター」を設置。

・総合診療科及び整形外科で外来診療を行っていたリウマチ性疾患について、日々進歩する最新のリウマチ診療を奈良県民に提供するとともに、診

# 理事長・学長からのメッセージ vol.38

療科横断的なリウマチ診療の強化や人材育成、研究力の向上に資するため、中央診療施設に「リウマチセンター」を2024年10月に再設置。

・総合画像診断センターにおける画像診断件数ならびに1件あたりの画像診断情報は増加し、また高度な専門知識を要する症例の増加や、夜間・緊急検査への読影要求、読影率のさらなる向上、全例に対し検査前画像診断管理の実施など、画像診断専門医の大幅な負担増に対応するため、総合画像センターの教員定数を3名増員し、医療の質の向上に寄与。

## ● 附属病院における経営改善

【3期目後半の進展・結果】 経営に関する定例会議や診療科・中央部門長への面談を定期的に行い、現状把握と課題抽出を継続的にを行い、組織横断的な対応を推進（主要指標 病床稼働率：2022年度 68.6%→2024年度 81.9%、手術件数：2022年度 7,686件→2024年度 8,793件、紹介率：2022年度 83.3%→2024年度 89.3%、逆紹介率：2022年度 84.6%→2024年度 91.8%など）

## ● 医療費適正化への貢献

【3期目後半の進展・結果】 後発医薬品の使用割合80%を維持（2022年度 80.0%→2024年度 84.6%）

## ● 新型コロナウイルス感染症対応

【3期目後半の進展・結果】 ・2023年5月の第5類への移行後も県の要請に応じ、2023年度末まで患者受入病床を確保。

・「新型インフルエンザ等感染症、指定感染症又は新感染症に係る医療を提供する体制の確保に必要な措置に関する協定」「災害支援ナースの派遣に関する協定」（災害・新興感染症対応）を奈良県と2024年4月に締結。

## 4. 総合

### ● ★ MBT構想（医学による日本創生モデル）

以下の大部分は奈良医大MBT研究所（所長：細井裕司）とMBTコンソーシアム（理事長：細井裕司）の共同事業です。

### ● (特記1) MBTコンソーシアム会員企業 151社 (2025.7.23現在)

・2025年7月現在、奈良医大の下に集まっているMBT会員企業が151社となった。会員企業の本社所在地は14都府県に分布しており、奈良44社、大阪41社、東京41社となっている。医科の単科大学に医療と関係のない企業も含めてこのように多数の企業がコンソーシアムを形成している例は世界的にも稀である。

### ● (特記2) 難病克服キャンペーン

【3期目後半の進展・結果】 ・キャンペーンに対し9団体からの後援名義使用許可を得た。協賛企業・団体は42組織となり、広報活動を依頼。

・難病克服支援「MBT みんなで守るいのちの映画祭」の開催

（第3回 2024年1月 よみうり大手町ホール ゲスト 吉永小百合氏、第4回 2025年1月 日経ホール ゲスト 渡辺謙氏、第5回 2026年1月 日経ホール ゲスト 田中裕子氏）

・難病への理解促進のためのMBT映画祭受賞作品の上映

（2023年10月・2024年10月・2025年6月 けいはんなプラザメインホール、2025年3月 本学）

・難病克服支援WEBセミナー

（第5回 2023年9月、第6回 2024年3月、第7回 2024年8月、第8回 2025年3月）

### ● (特記3) 経団連地域協創アクションプログラム

【3期目後半の進展・結果】 ・経団連の地域協創アクションプログラム10項目のうちの1つ（「医療・育児・介護・移動など健やかで快適な暮らしの基盤を協創する」）の取組主体者として活動を実施。

・2025年2月 経団連企業やアクションプログラム参加の約60名が参加するWEB勉強会を開催。

### ● (特記4) 「よい仕事おこしフェア実行委員会」（事務局：城南信用金庫）との連携協定

【3期目後半の進展・結果】 ・奈良医大およびMBTコンソーシアムと「よい仕事おこしフェア実行委員会」（事務局：城南信用金庫）が2023年2月27日に連携協定を締結。全国の信用金庫と連携し、医学の知識を基に社会貢献活動を展開。

・2023年11月 「2023よい仕事おこしフェア」へ出展

・2024年12月 「2024よい仕事おこしフェア」へ出展

### ● (特記5) 【3期目後半新規】 スタートアップ・エコシステム共創プログラム

2024年1月、本学が共同申請していたスタートアップ・エコシステム共創プログラムに採択された。同プログラムは、大学等発スタートアップの創出に向けた取組を支援するもので、本学は京都大学を主幹機関とする「関西スタートアップアカデミア・コアリション (KSAC)」のメンバーとして参加。

・GAP ファンド採択課題

口腔外科学講座の柳生貴裕講師 「マッチングプラットフォームを活用した抜去歯牙などの医療廃棄物の効率的利活用」

血栓止血先端医学講座の辰巳公平准教授 「血友病 A 根治に向けた同種他家FⅧ産生細胞による細胞治療法の確立」

### ● (特記6) 【3期目後半新規】 大阪・関西万博夢洲本会場出展

・2025年4月30日 大阪ヘルスケアパビリオンリポーン広場講演（細井、梅田研究教授）

・2025年6月10日～16日 大阪ヘルスケアパビリオンリポーンチャレンジ出展

・2025年7月28日～8月3日 関西パビリオン京都ブース

・2025年9月30日 大阪ヘルスケアパビリオンリポーン広場講演（細井、梅田研究教授）

### (イベント等への出展) 【3期目後半新規】

・2023年 9月 日経クロステックNEXT2023（東京国際フォーラム）

・2023年 9月 湘南アイパーク Membership Day 2023（湘南ヘルスイノベーションパーク）

・2023年10月 講演イベント「医学を基礎とするまちづくり（MBT）と産業創生」（湘南ヘルスイノベーションパーク）

・2023年10月 奈良県防災総合訓練（吉野運動公園）

・2023年11月 HANA ZONO EXPO 2023（花園中央公園）

・2023年11月 第3回 Challenge 万博「いのち輝く未来社会」へ（三井住友銀行本店東館）

・2023年12月 イノベーションストリーム KANSAI 7.0（グランフロント大阪コンプレクションセンター）

・2024年 7月 げんきに暮らせる未来を創る健康まちづくり EXPO2024（グランフロント大阪）

・2024年10月 DX オープンイノベーションフォーラム 2024（グラングリーン大阪 JAMBASE）

・2024年10月 日経クロステック NEXT 東京 2024（東京国際フォーラム）

・2024年10月 第4回 Challenge 万博—大学発シーズ・スタートアップがつくる未来社会—（三井住友銀行本店東館）

・2024年10月 奈良県防災総合訓練（奈良市都祁生涯スポーツセンター）

・2024年11月 イノベーションストリーム KANSAI 8.0（グランフロント大阪コンプレクションセンター）

・2025年 6月 けいはんな万博2025 Well-Being Festival（けいはんなプラザ）

### (包括連携の取り組み) 【3期目後半新規】

・2024年 6月 Nakanoshima Qross

未来医療の産業化拠点と関西公立私立医科大学・医学部連合が連携

- ・2024年8月 日本郵便(株)近畿支社 医学知識を基に地域の活性化と産業の振興を図る
- ・2024年11月 (株)モンベル 若者や高齢者の健康増進などの活動を行う
- ・2024年12月 UPDATE EARTHのスクールパートナー イノベーション進展を狙いに「育成」「発掘」「成長」の機会を提供

#### 【その他の活動】【3期目後半新規】

- ・2023年12月 軟骨伝導の発見と実用化に貢献の功績により、日本オーディオ協会が細井理事長を「音の匠」に選定。
- ・2024年3月 ならこーぷ健康大学でMBT講義を実施。
- ・2024年3月 第1回モバイルモニタリング研究会を開催  
モバイル関連機器、モニター、ネットワーク、データベースなどを用いた患者の安全に関わるテーマを中心としたモバイルモニタリング研究会(代表世話人：辰巳満俊 医療の質・安全管理センター センター長)を開催。
- ・2024年11月 MBT実証実験説明会を開催  
電力データを活用した「地域の健康見守り」が、新たに北海道喜茂別町、長野県売木村、福井県おおい町、沖縄県南城市などで開始され住民向け説明会やセミナーを実施。
- ・2024年12月 2025年1月 政策アクション会議でMBT産業創生活動を紹介
- ・2025年2月 [AI北海道会議]設置記念シンポジウムでMBT講演を実施
- ・2025年2月 南十勝夢街道プロジェクト推進会議でMBT講演を実施

## ●その他

- **未来への飛躍基金：将来を担う優れた人材育成を目的とした修学環境の向上、社会貢献及び国際交流推進のため各種施策に活用**  
【3期目後半の進展・結果】・基金創設後10年間で総額 約14.2億円(2025年3月末現在)の寄附を獲得。  
・若手研究者への英語論文校正費用の助成制度を充実するとともに、海外留学助成制度、APC助成制度を創設。また、講義室の机・椅子の更新、研究用備品の整備など教育・研究環境の充実にも活用。  
・基金に多額のご寄附をいただいた、紺綬褒章の受章者・受章予定者が9名となった。
- **学内広報の活性化**  
【3期目後半の進展・結果】・学報における理事長・学長からのメッセージ：vol.86～vol.93の8回  
・奈良医大キャンパスだより：第14号～第15号の2回  
・MBTニュースレター：第227号～第358号の131回、MBTジャーナル：vol.13～vol.16の4回
- **積極的な情報発信、広報の充実**  
【3期目後半の進展・結果】マスメディアの活用  
・記者会見、新聞・雑誌・テレビ等マスコミ取材、テレビ出演、記事掲載など積極的にマスメディアを活用し、情報発信  
・大学全体の期間中の報道等件数：181件、うち理事長・学長が対象となった報道等件数：35件  
・法人の取組(MBT、MBT映画祭)について、公式SNS(Facebook、X(旧Twitter)、YouTube)を開設し、情報発信を充実  
・MBT関連の広報は上記に記載
- **障害者雇用の推進**  
【3期目後半の進展・結果】・2024年11月 職業リハビリテーション研究・実践発表会(東京ビッグサイト)でベンチャー認定企業の(株)MBTジョブレオネ 岡山弘美氏が特別講演。  
・2024年度より理事長特任として、契約更新回数(最大4回)の上限を撤廃し、継続勤務を可能とした。
- **畝傍山キャンパスの開校**  
【3期目後半の進展・結果】・畝傍山キャンパスの工事については、2024年11月に竣工。2025年2月に県知事をはじめとした県関係者を招き、内覧会を実施。  
・2025年4月1日にオープン。4月7日に新キャンパスとしてはじめての入学式を開催。
- **新A棟整備**  
【3期目後半の進展・結果】・新A棟整備について、知事と法人役員との意見交換会を実施し、2024年11月に整備規模、事業費、整備内容などについて、県と合意。新駅開業に合わせて2031年度中の竣工を目指す。
- **開学80周年記念事業**  
【3期目後半の進展・結果】・2025年5月24日に畝傍山キャンパスにおいて、開学80周年記念及び畝傍山キャンパスオープン記念式典を開催。  
・式典には、国、県、県内自治体、関係大学・医療機関・企業の皆様、本学の関係者など約210名の方の参加。テーマ「奈良から世界へ」と題した記念講演を実施。ミシガン大学医学部からBrian D. Athey 教授を、奈良先端科学技術大学院大学から塩崎 一裕 学長を招聘し、それぞれご講演いただいた。  
・2025年度を80周年記念YEARとして、ロゴマークを作成。記念式典を皮切りに様々な記念事業を展開。
- **【3期目後半新規】学歌の制定**  
・開学80周年と畝傍山キャンパス開設を契機に、大学の理念を象徴する学歌を正式に制定する運びとなり、記念事業実行委員会のもと「学歌部会」を設置し制作を行った。  
・2025年4月に奈良県橿原文化会館で《1000人の大合唱レコーディング》～奈良から響け、未来への歌～を開催
- **【3期目後半新規】第4期中期計画の策定**  
・2025年度からはじまる第4期中期計画について、中期計画委員会で議論を行い、計画を策定。
- **【3期目後半新規】特別休暇等の見直し**  
・職員の負傷又は疾病による休職及び傷病休暇の期間の見直しを図るとともに、同一労働同一賃金の観点から、一部の特別休暇等について、正規職員と非正規職員との間の待遇差の解消を実施。
- **【3期目後半新規】育児・介護休業法の改正にかかる就業規則等の改正**  
・男女とも仕事と育児・介護を両立できるように、育児期の柔軟な働き方を実現するため、2025年4月1日付けで育児・介護休業法が改正されることに伴い、子の看護休暇の取得事由の拡大など就業規則等の改正を実施。
- **【3期目後半新規】外来ベースアップ・入院ベースアップ評価料の施設基準取得**  
・2024年度診療報酬改定で新設された賃上げを要件とする施設基準について、賃上げを行うことを前提に、2024年6月届出。
- **【3期目後半新規】給与改定**  
・人事委員会勧告に準じ、基本給、勤勉手当、各種手当等を改定。

# 第5回MBT みんなで守るいのちの映画祭を開催

1月17日、東京・大手町の日経ホールにおいて「第5回MBT みんなで守るいのちの映画祭」が開催され、約400名が来場する盛況な催しとなりました。本映画祭は、医療・福祉・生命の尊厳をテーマとした映像作品を通じて、社会全体で「いのち」を考える機会を創出することを目的として、本学とMBTコンソーシアムが継続的に取り組んでいるものです。

開会にあたり、細井裕司理事長が登壇し、Medicine-Based Town (MBT) の理念と映画祭の開催趣旨について改めて説明しました。また、高市早苗内閣総理大臣から寄せられた激励のメッセージが司会者より紹介され、会場は大きな拍手に包まれました。



冒頭挨拶する細井理事長



最優秀作品賞を受賞した柴田氏

今回は全国から61作品の応募があり、その中から選出された6作品が上映されました。プロの映画監督、本学の医療関係者、難病患者代表など計7名で構成される審査委員会（委員長：映画監督・篠原哲雄氏）による審査の結果、柴田明良監督の「器」が最優秀作品賞を受賞しました。また、優秀作品賞1本、特別賞2本が選出され、特別賞のうち1作品は映画祭初となる海外作品となりました。

上映後のトークセッションでは、審査員と作品監督による活発な意見交換が行われ、作品の評価や制作の背景、映像表現の工夫などについて議論が交わされ、来場者も熱心に耳を傾けていました。さらに表彰式後には、特別上映作品「火火」の主演女優・田中裕子さんが舞台挨拶を行い、本映画祭の趣旨に共感する思いとともに、創作に携わる若手監督や観客に向けた温かいエールが送られました。



田中裕子さんが応援にかけつけてくれました

本映画祭は、医療と文化を結び付け、社会に対して本学およびMBTの活動を発信する重要な場として、今後も継続的な発展が期待されます。



# MBT研究所だより (第39報)

奈良医大と奈良先端大は奈良県における医学、工学及び関連諸科学の中核機関として連携の強化を図ってきましたが、この1年間大きな進展がありました。MBT研究所は特に両大学の研究者間のマッチングを中心に支援してきましたので、連携強化の主な動きをご紹介します。

## 1. 奈良先端医工科学連携機構

2024年12月、奈良医大と奈良先端大は、教育水準の向上、大学機能強化に資するとともに、医学、工学及び関連諸科学の緊密な連携並びに競争の輪の拡大によるイノベーションの創出を通じて地域の発展に寄与することを目的に、一般社団法人奈良先端医工科学連携機構(略称:MSTeC NARA)を設立しました。2025年3月、MSTeC NARAは文部科学大臣より、大学等連携推進法人に認定されました。医工連携を目的とした大学等連携推進法人は全国初のもとなります。



山下知事に認定の報告をするMSTeC NARA理事の先生方

## 2. NAISTメディルクス研究センター 奈良県立医科大連携ワークショップ

2025年5月、MSTeC NARAの大学等連携推進事業の一環として、「NAISTメディルクス研究センター、奈良県立医科大連携ワークショップ」を開催し、奈良先端大のメディルクス研究センターの6名の先生方にご講演をいただきました。会場55名、オンライン80名とたくさんの方に参加いただき、講演後の質疑応答も活発に行われました。講演会後には、研究者同士の懇親会も開催され、様々な意見交換や交流が行われました。



連携ワークショップの様相

## 3. NARA医工連携イニシオ

2025年9月より、毎月第2週にオンラインでNARA医工連携イニシオを開催しています。9月10日の第1回目のイニシオでは、脳神経内科学の杉江和馬教授が「脳神経筋疾患における病態解明とオートファジー研究」のタイトルで講演されました。「イニシオ(Inicio)」はスペイン語で「始まる」という意味で、両大学の研究連携の促進を目的としたリレー形式の定期セミナーとなっています。両大学から、シーズ、ニーズを紹介しあう中から共同研究や産業化テーマの発掘を目指しております。



杉江先生の講演

## 4. 医工連携が未来を創る ～MSTeC NARAの挑戦～フォーラム

2025年12月、大阪大学中之島センターで、「医工連携が未来を創る～MSTeC NARAの挑戦～フォーラム」を開催しました。満席の盛況の下、高市早苗内閣総理大臣や山下真奈良県知事からもメッセージが届く中、塩崎一裕代表理事、細井裕司副代表理事から設立の経緯と目指す目標が語られました。

第1部では奈良医大と奈良先端大の新技術・新事業創生挑戦テーマ4題の講演が行われるとともに、第2部では「産学官連携」をテーマに、パネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、石黒浩大阪大学栄誉教授のモデレートの下で、両大学学長による産学官連携に関する問題提起に対し、三澤康特命全権大使(関西担当)、信谷和重近畿経済産業局長、廣瀬恭子大阪商工会議所副会頭、諏訪正樹オムロン(株)執行役員の名氏による意見表明がなされました。



細井理事長の開会挨拶



パネルディスカッションの様相

# 事務プロジェクト「ナラメドナレッジラボ」活動報告

事務プロジェクト 小屋／岡田／和田／高島／徳田／丹羽／角  
植松／新谷／井戸／大上／三浦(法人企画部長)

## プロジェクト発足の背景と目的

2025年2月に事務職員対象に行った Microsoft 365 利用状況アンケート調査の結果、日常業務において Word や Excel は広く利用されている一方、Teams や OneDrive など、クラウドツールの活用は十分に進んでいない現状が明らかになりました。また、職員からは「データ共有の改善」「業務プロセスの効率化」「生成 AI の活用」といった、業務効率化に対する高い関心が示されました。

こうした背景を受け、事務業務の効率化や精度向上を図ることを目的として、事務職員によるプロジェクト「ナラメドナレッジラボ」を発足しました。本稿では、令和7年度に実施した取り組み内容をご紹介します。

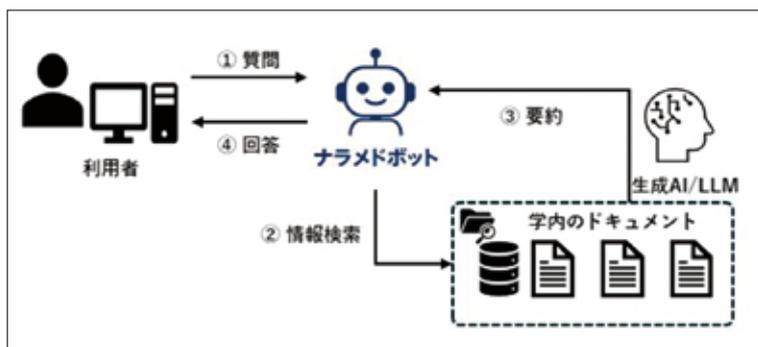
## 取り組みの柱1：生成 AI の業務活用の検証 (PoC：概念実証)

急速に進化する生成 AI を業務に安全かつ効果的に導入するため、RAG (検索拡張生成) の仕組みを活用した学内での生成 AI 検証を実施しました。

まず、学内規程やマニュアル等を学習データとして用いた AI チャットボット「ナラメドボット」を作成し、3か月間にわたり、本学に関する質問への回答精度や情報検索の効率化の程度を検証しました。その結果、回答の正確性が高く、情報検索における業務効率化に一定の有用性が確認されました。

さらに、事務部門の各課での利活用範囲を拡大するため、「Microsoft Copilot Studio」を用いて各課専用の「ナラメドボット」を作成し、同じ Microsoft 製品である Copilot Chat や Teams から利用できる環境下でも検証を行いました。学内データを SharePoint に蓄積することで AI の学習効率を高め、部署固有の業務に特化した信頼性の高い AI 活用の実現に向けて、大きく前進することができました。

検証を通じて、生成 AI には事実と異なる内容を生成する「ハルシネーション」のリスクが確認されました。しかし、このリスクを理解した上で業務補助ツールとして活用すれば、情報検索や資料作成の時間を大幅に短縮できる可能性を秘めていることが実証されました。



AIを活用したチャットボット概要図

## 取り組みの柱2：Microsoft 365 の利活用促進

生成 AI の活用検証と並行して、プロジェクト発足のきっかけとなった Microsoft 365 の利活用促進に取り組みました。

プロジェクトメンバーは、日常業務で Microsoft 365 を積極的に活用し、メンバー間で事例共有（発表や Teams チャンネルへの投稿）を行いました。また、Power Automate や Power BI のハンズオンセミナーを通じて、学んだ内容を他の業務に応用するなど、実践的なスキル向上を図っています。さらに、これらの事例（ナレッジ）を集約し、共有サイトで公開する予定であり、事務職員向けの報告会も開催することで、学内全体への知見の波及を目指しています。



ハンズオンセミナーの様子

# 働き方改革だより

## 第4期中期計画期間 働き方改革キャッチコピー「やってみようが職場を変える」に決定しました

第4期中期計画の価値目標である「誰もが働きやすく働きがいのある職場づくり」に向け、働き方改革推進委員会ではキャッチコピー募集のアンケートを実施しました。最も多く投票いただいた、「やってみようが職場を変える」をキャッチコピーとして決定しました。アンケートへのご協力ありがとうございました。一人ひとりの「やってみよう」を応援・サポートし合える奈良医大にしていきたいと思います！

選ばれたのは /  
**やってみようが  
職場を変える!**

## 業務見直しミーティング報告 ～外部有識者を交えた業務見直しの取組～

消化器外科 編

本学では、医療の質・安全を確保し、医療従事者の働き方改革を推進するため、2025年12月2日に消化器外科において関係職種合同の業務見直しミーティングを実施しました。外部コンサルタント（社労士）を交えてミーティングを進行する取り組みは、産婦人科に引き続き2度目の試みとなります。医師・看護師・事務それぞれの視点から事前に課題をあげていただき、DRASTIC視点（下図参照）に基づき、当日議論された改善項目についてご紹介します。

**業務見直しの視点 (DRASTIC)**    Discontinue (思い切ってやめる)    Reverse (発想の転換)    Assign (割り当ての見直し)  
Substitute (代用)    Turn (手順変更)    Into Pieces (分散処理)    Concentrate (集中処理)

## 消化器外科における課題と対応策 (抜粋)

課題	ミーティングで決定した内容 (医局会で周知)
指示出し依頼をしたいが長時間の手術等の場合に医師と連絡が取れず日勤看護師の時間外対応が生じることがある	医局内で電話連絡のルールを明確にする
ガーゼ交換担当の看護師を配置できないか	トライアル実施
化学療法入院時、当日採血の結果を見て入院するかを判断する場合、誰に連絡すればよいのかわからない	予約コメントに「〇〇チーム・担当名」を入力し連絡先を明確にする

➡ また、今後も3～4ヶ月に1度程度、継続的にミーティングを実施し、職種間のコミュニケーションの場を設定することになりました。

## ミーティング所感 (消化器外科 庄教授)

B6病棟に関連する医師・看護師・病棟事務・大学事務のほか、社労士の方も交えて、改めて業務全般を見直し、課題や各々の想いを共有できて大変有意義でした。最も忙しい病棟の一つですが、皆にとってより働きやすく、明るい職場環境となればと思います。



このようなミーティングを通じて身近なところから従来の仕組みを見直し、現場の声から生まれる「やってみよう」を1つでも多く形にできる職場にしていきたいと思います！



## 動画作成支援ツール活用による患者説明の効率化と質向上 ～ICT活用実践～

患者説明におけるICT活用についてご紹介します。定型的な説明（入院オリエンテーションや検査等）における医療従事者の外来及び病棟での業務効率化を目的として、動画作成システムを導入しました。使いやすい動画編集機能（スライド作成、ナレーション編集）により、簡単にオリジナルの説明動画を作成・公開できるシステムです。待ち時間を利用し、動画を事前に視聴していただくことで、対面説明では患者さんからの不明点や補足説明に注力できるようになり、医療従事者の業務効率化・時間短縮につながっています。また、院外からも視聴できるクラウドサービスであるため、QRコードをお渡しし、次回の外来までにご家族と一緒に視聴していただくなどといった運用も可能となり、患者やご家族の理解度向上にも寄与することができ、各診療科や病棟において徐々に活用が広がっています。



動画とQRコード活用で医師の説明負担が軽減し、来院困難な家族も視聴可能となり、効果的な情報共有を実現できていると思います。（消化器外科・医師）

昨秋から手術入院患者を対象にオリエンテーション動画を活用しています。20分の説明を動画視聴に置き換え、患者に個別性を踏まえた内容のみ伝えることで、看護師の負担軽減につながっています。（産婦人科外来・看護師）



今後院内での活用範囲を拡大し、医療の質・安全を担保しながら医療従事者の負担軽減を図り、持続可能な医療提供体制を目指します。

# 臨床医学講座 教育主任の紹介



医学部長 嶋 緑倫

2020年の医学部長就任以来、臨床医学教育の改革と推進は重要課題の一つでした。そのため各教室のご協力を得て、教育主任を選任し、51名の先生方にご就任いただきました。近年、教育主任の役割は益々重要性を増しており、臨床教育部長のリーダーシップの下、毎月の会議で活発な議論が行われ、教育改善に大きく寄与しています。奈良医大の臨床教育の発展は教育主任の先生方の献身的なご尽力によるものであり、これまでの貢献に深く感謝するとともに、今後のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

循環器内科学  
助教 中川 仁



循環器内科での学びが学生さんの将来に役立つよう、当科一丸となって学生教育に取り組んでいます。主体的に学べるよう、考えるための課題提示、プレゼンテーションの機会の提供、フィードバックをそれぞれ重視しています。また、心電図検定に向けた勉強会や学会参加・発表の機会も積極的に設け、学生の可能性を伸ばす取り組みを進めています。

腎臓内科学  
診療助教 岡本 恵介



腎臓内科学の教育主任を務めさせていただいております岡本恵介と申します。日米での臨床経験を生かし、医学部生の皆さまが臨床現場を理解し、実践へとつなげる教育の充実に努めてまいります。よろしくお祈りいたします。

呼吸器内科学  
助教 長 敬翁



大学の教育主任として、呼吸器内科の専門性を基盤に、確かな臨床力と自ら考え行動できる力を備えた医師の育成に取り組みます。気管支鏡シミュレータなども駆使し、実際の医療を実感できる教育環境づくりを目指します。

血液内科学  
助教 田中 晴之



こんにちは、血液内科教育主任の田中です。1週ポリクリでは基本的手技と疾患の理解を中心に、4週ポリクリでは入院および外来患者さんから症状や兆候および治療を学んでいただくように考えています。難しくはないので、迷わず血液内科に来てください。

感染症内科学  
准教授 今北 菜津子



感染症は将来どの診療科に進んでも遭遇する疾患です。学生が主体的に考え、根拠に基づき判断できる力を育み、感染症診療における基礎的臨床力を身につけられるような指導を目指しています。感染症の面白さと臨床的意義を実感してもらえるよう、尽力いたします。

糖尿病・内分泌内科学  
助教 樽松 由佳子



教育主任として、本学のディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを意識したシラバスの作成と、講義や臨床実習を内容を振り返りながらブラッシュアップして実施し、将来の地域社会に貢献できるより良い医療人の育成に向けて、精一杯尽力していきます。

消化器内科学  
講師 西村 典久



今年度から教育主任を拝命いたしました。若輩の身ではありますが、学生の皆さんが将来優れた医療人としての基礎を築く一助となれるよう、微力ながら貢献させていただきたいと考えております。

脳神経内科学  
助教 七浦 仁紀



脳神経内科教育主任として、学修成果を踏まえた教育設計と講義・実習の充実を推進していきます。疾患を理解し考える力と学びの面白さを大切にし、一人ひとりの特性や学修ニーズに寄り添い、将来の進路につながる成長を支える教育に取り組めます。

消化器・総合外科学  
助教 松尾 泰子



教育主任として、消化器外科が担う幅広い診療領域を踏まえ、学生に外科的知識や基本手技を丁寧に指導します。講義・実習を通じて、外科医としてのやりがいや魅力が伝わる教育を目指します。

脳神経外科学  
脳卒中センター  
病院教授 山田 修一



脳神経外科では座学と実践を両立した教育を目指しています。臨床医学Ⅰでは単なる知識の習得ではなくその知識を治療につなげる講義を、臨床医学Ⅱ、Ⅲでは実践を踏まえてそこに理論を学習する。このような形で臨床にも国家試験にも強い教育を行っています。

胸部・心臓血管外科学  
学内講師 阿部 毅寿



対象疾患は虚血性心疾患・弁膜症・先天性心疾患・大動脈瘤・解離・閉塞性動脈硬化症・静脈瘤など(心臓血管外科領域)、胸部悪性・良性腫瘍、胸膜疾患など(呼吸器外科領域)です。手術、周術期管理についてよく観察し、学んでください。

整形外科  
講師 仲西 康顕



医学を学ぶことは緊張と責任を伴います。しかし知識や技能を身につけ、適切な態度をもってそれを患者さんの希望へつなげられることは、大きな喜びでもあります。整形外科をワクワクしながら学んでもらえるよう、教育主任として取り組んでまいります。

口腔外科学  
准教授 山川 延宏



口腔疾患は健康寿命にも大きく関わってきます。顎口腔領域特有の疾患に限らず、口腔と全身との関連、口腔機能の重要性を理解できるカリキュラムを作成し、専門診療科として、その重要性を認識してもらえるような教育を行いたいと考えています。

産婦人科学  
助教 岩井 加奈



今年度より産婦人科学講座の教育主任をさせていただいています。知識の習得にとどまらず、考える力や臨床での判断過程を重視した教育を行い、産婦人科診療への理解を深めてもらえるよう努めます。学生一人ひとりの成長を支える丁寧な指導を心がけてまいります。

眼科学  
講師 西 智



はじめまして。眼科学教室の教育主任を務めております、西 智(にしとも)です。私は小児眼科を専門としており、日々の診療や研究で得た気づきを、できるだけ多くの学生の皆さんに還元したいと考えています。これから医療者をめざす皆さんが、少しでも意欲と自信を持って講義や臨床実習に臨めるよう、全力でサポートしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



臨床教育部長 庄 雅之

現在、各教室の教育主任による「臨床医学教育のあり方ワーキング」を毎月開催しております。本会議では、臨床実習における諸課題を共有し、建設的な議論を重ねることで、質の高い「診療参加型臨床実習」の充実を図っております。教育主任の先生方、教育開発センター、教育支援課の皆様の真摯なご尽力に深く感謝いたします。こうした緊密な連携と地道な研鑽が、本学の臨床教育を支える強固な礎となるものと確信しております。

小児科学  
地域医療学  
特任助教 大前 隆志



学生さんや研修医・専攻医の先生方と向き合い、試行錯誤しながら教育体制をより良くしていきたいと思えます。普段の臨床とは違う頭の使い方も多く、こちらも日々学ばせてもらっています。

精神医学  
助教 水井 亮



精神科は、全ての診療の根幹を支える力です。患者さんの心に寄り添い、科学的な視点から状況を見立て、適切な精神医学的アプローチへつなげていく。その過程を、医学生の皆さんと共に学び、未来の医療を担う人材として成長できるまで、力強くサポートします。

皮膚科学  
教授 新熊 悟



将来の奈良県や日本を支える、バランスの取れた医師を育てることを最大の目標としています。医学部に入学する学生は、将来に向けた高い志と可能性を持った若者であり、そうした学生に対して、現実的で魅力あるキャリアビジョンを提示し、導いていくことが重要な責務であると考えています。

泌尿器科学  
助教 森澤 洋介



学生の皆さまが質の高い医療人材へと成長できるよう、教育の充実とサポートに努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

耳鼻咽喉・頭頸部外科学  
講師 山下 哲範



耳鼻咽喉・頭頸部外科教育主任の山下哲範です。教育主任として、学生一人ひとりの成長を支え、学びをより豊かにする環境づくりに努めます。奈良医大の未来を担う人材育成に全力で取り組みます。

放射線診断・IVR学  
講師 伊藤 高広



放射線診断・IVR学講座が扱う領域は非常に幅広く、将来どの進路を選ぶ学生にとっても必ず役立ちます。様々なシミュレータを積極的に活用し、最新の医学教育学の知見を取り入れ、講座メンバー全員が一丸となって医学生教育に取り組んでいます。

放射線腫瘍医学  
講師 三浦 幸子



放射線腫瘍医学講座 教育主任の三浦幸子と申します。当講座では、臨床実習を通じて放射線治療に対する理解を深められるよう、実際の機器を使用した実習を行います。また、学生さんが将来医師となった後も本学での実習経験や知識を活かし活躍できるようにサポートしたいと思えます。よろしくお願致します。

麻酔科学  
助教 阿部 龍一



麻酔科医の仕事の魅力は講義では分からないので、臨床実習で伝えることを目標に頑張っています。薬剤投与による患者の状態変化などを実際に見てもらうことで、麻酔への理解が深まると思えます。またシミュレーター教育で心肺蘇生などを経験してもらい、将来に役立つ学びを経験してもらっています。

救急医学  
教授 福島 英賢



臨床医学教育は大きく変化しております。教員だけでなく附属病院職員一丸となって取り組まなければならない、日々の臨床業務の中で如何に効率的に教育を実施していくか、という課題に向き合っており頑張っております。

総合医療学  
在宅医療支援センター  
特任助教 西村 信城



自分の学生時代を振り返りながら、教育主任として、授業のシラバス作成や大学病院であることを活かしたポリクリ実習指導体制の充実と教育内容の質向上を図り、社会に信頼される医師の育成に貢献したいと思います。

病理診断学  
准教授 武田 麻衣子



病理診断学は、臨床と基礎をつなぎ、医学の面白さが凝縮された分野です。教育主任として、その魅力と考える楽しさを学生に伝え、主体的に学べる教育環境を目指します。

リハビリテーション医学  
准教授 稲垣 有佐



リハビリテーション科の治療対象は、あらゆる疾患による、立てない、歩けない、食べたり話したりができないといった「活動の障害」です。「チーム医療」で疾患予後を改善することを目指す当科の魅力、講義や臨床実習を通して、お伝えしたいと思います。

がんゲノム・腫瘍内科学  
教育開発センター  
講師 吉井 由美



腫瘍内科ではがん薬物療法やゲノム医療の最前線を学んでもらうとともに、疾患や治療だけではなく生活や価値観まで含めて患者さんを支える医師を育てます。症例検討や実習も含め、教科書だけでは学べないがんのリアルや腫瘍内科の魅力をお伝えできればと思います。

公衆衛生学  
助教 西岡 祐一



公衆衛生は、人々の生きている社会そのもの、つまり一定地域の住民や職場で働く人などの「社会集団」を対象にしており、この点が臨床医学との違いです。様々な研究を通じて得られた科学的根拠を国や自治体の健康政策の立案に役立てる公衆衛生の視点や面白さを伝えていきたいです。

法医学  
講師 工藤 利彩



教育主任として、アウトカム基盤型教育に基づき、アウトカムとディプロマポリシーの整合性を意識したシラバス立案・作成から講義・実習の実施、学生モニタとの意見交換会の実施による講義のブラッシュアップまで、質の高い学びと未来の医療人育成を全力で推進します。

# 先端医学研究支援機構だより

## 研究力向上支援センターからのお知らせ

### 研究力向上支援センターに田中 URA が着任されました

研究力向上支援センター URA 担当特命講師 田中 昌子

2025年10月1日付で研究力向上支援センターに着任いたしました田中昌子と申します。大阪市立大学理学部卒業後、同大学院理学研究科にて昆虫生理生態学を、医学研究科にて薬理学の研究を修め学位を取得しました。専門は応用薬理学、腫瘍生物学で、これまでに3つの大学で生命医学の教育・研究に従事してまいりました。これまでの経験を活かし、本学の研究の発展に貢献できるように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。研究に関するどのようなことでもお話を伺いたいと思いますので、どうぞ、お気軽にお声掛けください。



## 医学研究支援センターからのお知らせ

### 動物実験施設における研究活動支援業務の紹介

本学動物実験施設では、適正な動物実験実施のための国際原則 **3Rs (Replacement, Reduction, Refinement)** に基づいた研究活動を促進していくために、利用者に対して動物実験に関連する基本手技のレクチャーを実施しております。

#### 【動物実験に関連する基本手技】

- ① マウス・ラット保定方法
- ② 麻酔方法 (吸入麻酔法、注射麻酔法)
- ③ 薬剤投与 (腹腔内投与、尾静脈内投与、経口投与、皮下投与)
- ④ 組織サンプリング (灌流固定方法、臓器採取)

上記技術のレクチャーを希望する場合は、動物実験施設へお問い合わせください。

また、上記技術以外の技術のレクチャーを希望する場合についても、内容によりレクチャーが可能になる場合があるため、気軽に動物実験施設へお問い合わせください。

本学動物実験施設では、2025年度より生殖工学技術を利用したマウス遺伝資源保存に関する受託事業 (体外受精、顕微授精、精子凍結、胚凍結、胚移植) を行なっていますので、是非、ご活用ください。



**お問い合わせ** 医学研究支援センター動物実験施設 内線 2566、2611 E-mail : larc@naramed-u.ac.jp

### RI 実験施設に小動物用 PET/CT 装置が導入されました

RI 実験施設 (総合研究棟 5 階) に「小動物用 PET/CT 装置」が導入されました。本装置は理化学研究所 (神戸市) より譲渡していただく形で導入されました。臨床と同様にマウスやラットの FDG-PET 検査が可能です。臨床研究段階の新規 PET 薬剤についても利用可能で、幅広い研究の発展に貢献するものです。

**PET の活用例 1 :** マウス皮下へ移植した腫瘍の増殖速度とその抑制効果を調べたい場合、 $^{18}\text{F}$ -FDG (フルオロデオキシグルコース) 薬剤により、経時的な変化を非侵襲的に調べることができます。

**PET の活用例 2 :** 神戸医療センターで合成可能な  $^{18}\text{F}$ -FAPI (Fibroblast Activation Protein Inhibitor) を用い、各臓器の障害による「繊維化」を画像化することができます。

**費用 :** デリバリーで入手できる  $^{18}\text{F}$ -FDG であれば、1 日分 (マウス 4 匹程度) で約 5 万円です。神戸医療センターで  $^{18}\text{F}$ -FAPI を委託合成する場合、1 日分で約 30 万円です。

**利用開始時期と研究の相談 :** 2026 年 4 月から利用できる見込みです。研究計画の検討は、当施設教員 (菓子野) がサポートいたしますので、RI 管理室 (内線 2650)、または菓子野 (内線 2349) (kashino@naramed-u.ac.jp) へお気軽にご相談ください。



### 組換え DNA 実験 教育講演会 2025 を開催しました

本学では、遺伝子組換え技術の研究・開発および利用における安全性への理解を深め、組換え DNA 実験の安全性向上を図ることを目的として、毎年、教育講演会を開催しています。

2025 年度は、信州大学 基盤研究支援センター 遺伝子実験支援部門の松村英生先生 (遺伝子研究安全管理協議会・組換え生物等委員会委員長) を講師にお迎えし、「遺伝子組換え実験に関わる法令改正および国内における最近の組換え実験取り組みの動向」と題してご講演いただきました。講演の最後には、「規則はみなさんの研究活動を縛るものではありません。みなさんの声 (要望) が、現状に合わせた見直しにつながることもあります。」との言葉があり、参加者に深い感銘を与える内容となりました。

今後も私たち一丸となって、安全かつ円滑な組換え DNA 実験環境の構築に努めてまいりましょう。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。



松村英生先生 (信州大学)

## ハゲタカジャーナルにご注意ください

学術雑誌の中には、注意が必要な怪しいジャーナルが多数存在します。著者が支払う論文掲載料 (APC) を狙った悪質な学術誌のことを英語では「Predatory Journal」、日本語では、「粗悪学術誌」「ハゲタカジャーナル」「捕食ジャーナル」などと言います。

ハゲタカジャーナルでは適切な査読が行われていないため、投稿された論文の質が保証されていません。また、健全なオープンアクセス誌 (OA 誌) を装い、研究者を騙して論文を投稿させて論文掲載料を騙し取ります。研究者にとってこのようなジャーナルの存在は大きな問題です。

### ハゲタカジャーナルに投稿すると

ハゲタカジャーナルに投稿すると、研究者は高額な APC を請求されます。また、一度ハゲタカジャーナルに論文が掲載されると、ハゲタカジャーナルだと気づいても論文の撤回が認められず、他の学術誌へ投稿できなくなってしまいます。

さらに、Web of Science や MEDLINE といった収載基準のあるデータベースには論文情報が掲載されないため、多くの研究者の目に触れず、自身の研究成果が認知されません。それどころか、信頼できないジャーナルに論文が掲載されてしまったことにより、その論文は適切な査読を受けていないと見なされ、周りの研究者の信頼を損なってしまう恐れもあります。

このように、ハゲタカジャーナルに投稿することは、研究者にとって金銭面だけでなくさまざまなダメージとなるため、論文投稿時は細心の注意が必要です。

### 実際のお問い合わせから

最近図書館にハゲタカジャーナルかと問い合わせのあった 2 誌は、どちらもジャーナルのホームページにインパクトファクターが掲載されていました。インパクトファクターがあれば要注目です。インパクトファクターは、Journal Citation Reports (JCR) というデータベースで調べられる Journal Impact Factor (JIF) のことです。

問い合わせのあったジャーナルについて JCR で調べたところ、雑誌名でも、ISSN でも出てきませんでした。このことから、偽の情報をホームページに掲載しているという怪しい点を確認できました。そのほか、ジャーナルのホームページに載せている Archive で今まで出版された論文数が明らかに少ないことや、その出版社が発行しているほかのジャーナルのインパクトファクターも偽の値をホームページに掲載していることなどから、2 誌ともおそらくハゲタカジャーナルであると回答しました。

### 完全な予防策はない

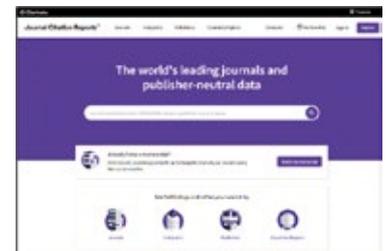
ハゲタカジャーナルを見分ける完全な予防策はありません。ハゲタカジャーナルは創刊・廃刊のスピードが速く手口が多様のため、どの方法がよいということは言い切れません。ただ、複数の情報源からジャーナルの信頼性をチェックすることは有効です。先に例に挙げたインパクトファクターを JCR のサイトから調べてみることや、ホームページに掲載されている情報を確認する、また、先輩や同僚といった近い分野の研究者にそのジャーナルの評判を聞くのもいい方法です。ただし、ジャーナル名を似せたハゲタカジャーナルもありますので、その点にもご注意ください。今回のように、図書館にお問い合わせいただくことも一つの有効な手段です。

### ホワイトリスト

#### • JCR : Journal Citation Reports

<https://jcr.clarivate.com/jcr/home>

Web of Science Core Collection から取得した出版情報・引用情報を集約しています。Web of Science Core Collection には選定基準があり、JIF が付与されるジャーナルはこの選定基準を満たしているジャーナルです。JIF は毎年変わるため、記載がある場合は年にも注目してください。



#### • Directory of Open Access Journals (DOAJ)

<https://doaj.org/>

こちらは IS4OA が管理運営している、オープンアクセス学術誌のウェブサイトです。ここでもジャーナルのタイトルで検索できます。21,000 誌以上のオープンアクセスジャーナルが収録されています。収録には厳しい審査基準が設けられています。



### その他参考サイト

#### • Think Check Submit

<https://thinkchecksubmit.org/journals/japanese/>

イギリスの学会等によるイニシアティブが、研究者が論文投稿先を探す際、信頼できるジャーナルを探すためのポイントを記載しています。その日本語版が公開されており、参考になります。

#### • Predatory Journals

<https://www.predatoryjournals.org/>

このサイトは、今までに粗悪出版社による被害を受けた研究者のボランティアで提供されています。ただし、提供者名や所属する機関名など具体的な情報を出していません。どこが母体かは不明ですが、試しに今回問い合わせのあったジャーナルの出版社 2 社を調べてみるとどちらもリストにありました。目安のひとつとして参照することはいいと思います。

ハゲタカジャーナルに騙されないためには、一旦立ち止まることが大事です。皆様の研究成果を守り、正しく活用される場に掲載するため、論文投稿先選びにはくれぐれもご注意ください。

# 国際交流センターだより vol.22

## プリンス・オブ・ソンクラ大学からの研究者 (11月～12月)

本学の学術交流協定校であるタイのプリンス・オブ・ソンクラ大学 (PSU) の研究者2名が、腫瘍内科 (11/4-11/21) および産婦人科 (12/1-12/26) において、それぞれ研修を行いました。今回の受入れは、2024年の協定締結後の初めての受入れとなりました。なお、本学からPSUへの派遣も可能です。ご関心のある方は、国際交流センターまでお問い合わせください。

### Dr. Rawikant Kamolphiwong

First of all, I am very grateful for the opportunity to participate in this exchange program. My stay at Nara Medical University was an extremely valuable and rewarding experience, both academically and personally. During the program, I was able to observe and participate in a wide range of clinical activities, including outpatient clinics, conferences, palliative care, genetic counselling, and educational sessions. These experiences allowed me to gain new perspectives on clinical practice, patient management, and multidisciplinary teamwork. The faculty members, doctors, nurses, and staff were very supportive and welcoming throughout my stay. Even when language differences existed, everyone made a genuine effort to help me understand clinical discussions, which I truly appreciate. Finally, the beautiful nature and rich culture of Nara made it a wonderful place to visit and live, further enriching my overall experience.



### がんゲノム・腫瘍内科学 教授 武田 真幸

腫瘍内科学講座として初めての短期留学生として、タイ・Prince of Songkla University から Medical Oncology のレジデントである Karn 先生を受け入れました。滞在中は、外来化学療法室、放射線治療室、腫瘍内科外来の見学などに積極的に参加していただきました。また、タイと日本における腫瘍内科診療の現状について活発な意見交換を行うことができ、非常に実りある人的交流となりました。



### Dr. Saengthian Theerakitpaisal

I had the opportunity to join an elective program at Nara Medical School Hospital, which was a very valuable experience to learn obstetrics and gynecology here. During the first two weeks, I trained in the gynecology department, participated in ovarian cancer surgery, and practiced speaking Japanese to request surgical instruments. The professors were very kind and supportive, and they even took me out to enjoy Monjayaki together.

In the last two weeks, I rotated in the obstetrics department, where I observed vaginal deliveries, caesarean sections, and the use of several instruments not available in my home hospital, such as the mini-metro. I felt happy, excited, and motivated every day. My accommodation was comfortable and convenient, and I also fulfilled my dream of visiting Kyoto, Mie, and Uji. This month has become one of my most cherished memories.



### 産婦人科学 教授 木村 文則

今年、Tiennie を受け入れられたことは産婦人科学講座としてとても幸せな経験でした。一生懸命学ぼうとする姿勢は、医療人として原点を見つめなおす機会となりました。Tiennie は、とてもかわいらしい性格で、みんなから愛され、医局員が英語で楽しそうに会話している様子を見ているととても幸せな気持ちになりました。海外に出ていこうとする医師のモチベーションにもつながったと思います。Tiennie ありがとうございます！



## 海外リサーチ・クラークシップ成果報告：ジャーナルに掲載されました

海外リサーチ・クラークシップ (2年次) に参加後も研究活動を継続していた本学学生の成果をご紹介します。

2023年度の海外リサーチ・クラークシップにおいて研究に取り組んだ小西菜々子さん (カナダ・アルバータ大学横田ラボ)、伊藤晴香さん (イギリス・リーズ大学アストバリーセンター) が、帰国後も引き続き研究に従事し、その成果が論文として発表されました。ご指導・ご支援を賜りました関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

Journal名: Nature Communications Article title: Zinc finger domains bind low-complexity domain polymers  
Publication: 16 October 2025 <https://doi.org/10.1038/s41467-025-64382-2>

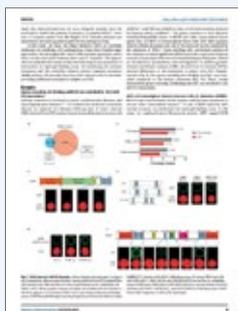
### 医学科4年生 小西 菜々子

国際学術誌 [Nature Communications] に掲載された論文 [Zinc finger domains bind low-complexity domain polymers] に、微力ながら関わらせていただきました。研究を進める中で不明点が生じた際には、未来基礎医学や脳神経内科学の先生方、ならびにテクニシャンの方々に、研究内容や実験手技についてご指導いただきました。日々の研究活動を通して、研究に必要な知識や実験技術を習得するとともに、研究の面白さを実感することもできました。私は今後も何らかの形で研究を続けていきたいと考えており、本研究に関わる中で得た経験は、他の研究テーマに取り組む際にも生かすことができると感じています。このような貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。



### 医学科4年生 伊藤 晴加

この度、上記の共著論文がジャーナルに掲載されたことを大変嬉しく思っております。帰国後、本論文に関連するZnFプロジェクトに携わらせていただきました。リサーチクラークシップの研修先で体得した手技や実際に見学した研究機器の一部が本プロジェクトと関わっており、研修前よりも各手法の強みを知ったうえで研究することができました。共著論文並びにリサーチクラークシップにおける全ての関係者の方々に心より感謝申し上げます。



### 未来基礎医学 准教授 森 英一朗

小西さんと伊藤さんは、海外リサーチから戻ってからも、授業時間外に研究室での研究活動に熱心に取り組んでくれました。この度、脳神経内科学・教授の杉江和馬先生のグループとの共同研究の成果が、論文としてNature Communications誌に掲載されました。この論文は、脳神経内科学の井口直彦先生と未来基礎医学の五十樓規嘉先生が中心となって、多機関の共同研究を通じて実現しました。小西さんと伊藤さんは、論文のリバイズの過程で求められた追加実験において貢献し、共著者として名を連ねました。今回の論文発表をお2人のキャリアにおける通過点として、今後も活躍されることを期待します。



## 海外リサーチ・クラークシップ派遣前研究報告会・壮行会を開催しました(11月4日・12月16日)

2026年1月5日から3月5日まで、リサーチ・クラークシップのため海外の研究室に滞在中の医学科2年生8名が、11月4日に派遣前の研究発表を行い、12月16日の壮行会では、留学への意気込みを述べました。

\*リサーチ・クラークシップとは、医学科2年生を対象としたプログラムで、早期に国内外の研究施設での研究に参加することにより、リサーチマインドを育てることを目的としています。



派遣前研究報告会の様子

### 医学科2年生 尾崎 祐太

私はこの度カナダにあるUniversity of Albertaの横田俊文先生のラボで2か月間研究をさせていただくことになりました。研究テーマは脊髄性筋萎縮症治療のためのアンチセンスオリゴヌクレオチドを用いた薬剤の開発です。私は遺伝子にアプローチする治療法の開発に興味があるのでこのテーマにとっても魅力を感じています。また、研究医を目指す私にとってこの海外リサーチクラークシップで得る経験は将来必ず生きてくる貴重なものとなるだろうと考えています。自分のために、そしてこのような貴重な機会を与えサポートして下さった多くの方々の期待にお応えするために、できるだけ多くのものを吸収してこれられるように頑張らせていただきます。



### 医学科2年生 朱 英里

派遣先である国立台湾大学消化器外科のYang教授の研究室は、アジア有数の大規模データベースを保有する世界的な研究拠点です。

私はここで、「GIST患者における他癌腫の発症リスク」を解明する臨床研究に挑みます。同大の圧倒的な症例数を用いて、日本では困難な希少がんの解析を行い、将来的なSCI論文掲載を目指します。言語の壁はあります。しかし、一つでも多くのことを学べるよう、チームの一員として能動的に議論し食らいつく覚悟です。世界レベルの研究姿勢を肌で感じて医学的にも人間的にも成長し、そして後輩の道しるべとなるよう精進してまいります。



### 医学部長 嶋 緑倫

海外リサクラは本学の研究マインド育成教育の中でも特に特色ある取り組みです。今年度は、8名の学生の皆さんが挑戦してくれることになりました。留学に先立ち、担当研究室において研究の基礎を学ぶと共に、留学先とも連携を取りながら、万全の準備を進めてこられました。壮行会の発表からも、明確な目標と強い意欲が感じられ、頼もしく思っております。研究体験に留まらず、海外の研究者との交流も深め、多くの刺激を得て帰ってこられることを期待しています。



壮行会で

### 2025年度 海外リサーチ・クラークシップ留学先 (5施設8名)

University of Alberta (🇨🇦 Canada)	尾崎 祐太	University of Michigan Medical School (🇺🇸 USA)	柴田 結心
The Ohio State University Wexner Medical Center (🇺🇸 USA)	片山 俊		田中 文康
	Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST) (🇯🇵 日本)	野原 千紗子	National Taiwan University and National Taiwan University Hospital (🇹🇼 Taiwan)
中村 春香		朱 英里	

## 令和7年度(第2回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定(10月17日)

令和7年度第2回若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の3名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増やし、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、30万円を上限として往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成するものです。

年に3回募集しておりますので、皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属(科目)	職名	氏名
脳神経外科学	診療助教	中瀬 健太
脳神経内科学	医員	西森 裕佳子
整形外科	医員	矢野 友大

## 奈良県立医科大学の高精度放射線治療の今 — 20年の「Novalis」の経験と実績を礎に、最新システムの導入へ —

戦略的医療情報連携推進講座／医療情報部／放射線腫瘍医学 玉本 哲郎

放射線治療は、主として腫瘍に放射線を照射して治療する方法であり、手術療法や薬物療法と並び、がんに対する重要な治療選択肢である。治療の鍵は「狙った場所に、必要な量を、ズレなく当てる」ことにある。特に脳など重要臓器が密集する領域では、ミリ単位の位置誤差が治療効果や副作用に影響し得るため、治療前の画像確認や治療中の体動監視を含めた画像誘導放射線治療 (IGRT) が不可欠となっている。

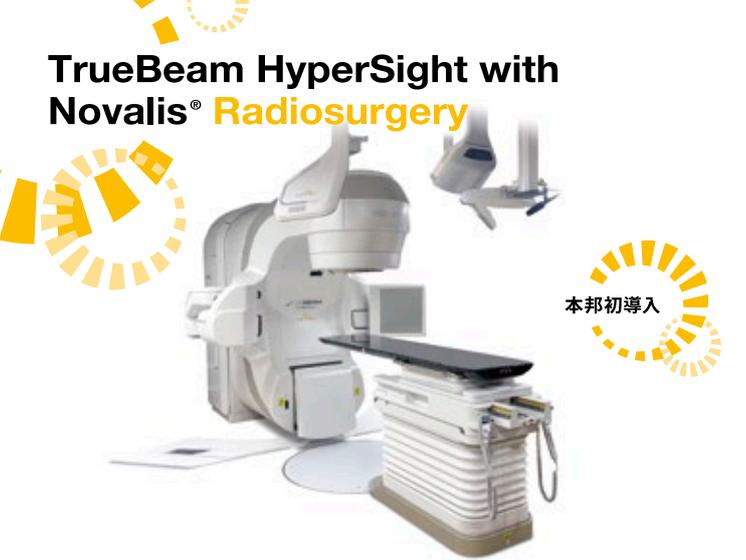
本学では、定位放射線治療 (SRS/SRT) を中心とする高精度放射線治療の分野で、国内でも比較的早い時期から臨床導入と体制整備を進めてきた。2005年には「Novalis Radiosurgery」を国内で2番目に導入し、2013年には「TrueBeam STx with Novalis Radiosurgery」を国内で初めて導入した。脳転移、髄膜腫などの脳腫瘍をはじめ、早期の肺癌や肝癌などの多様な疾患に対する定位放射線治療を継続的に実施し、治療経験を積み重ねてきた。治療計画の妥当性評価、固定具の工夫、日常点検と品質保証 (QA) など、高精度治療を安全に運用するためのノウハウを蓄積してきたことは、本学の大きな強みである。こうした経験を土台として、本学ではNovalis 関連システムを技術の進歩に合わせて継続的に更新し、診療の質向上に取り組んできた。

そして2025年、本学は「TrueBeam HyperSight with Novalis Radiosurgery」を国内で初めて導入し、Brainlab社の高精度位置合わせ・監視システムであるExacTrac Dynamicと組み合わせて運用を開始した。Varian社のTrueBeamに搭載されるHyperSightは、治療直前に取得する三次元画像 (コーンビームCT: CBCT) の見えやすさを高め、腫瘍や周囲臓器の位置関係を確認しやすくすることで、照射前の位置合わせの確かさを支える。ExacTrac Dynamicは、体表面の連続監視とX線による確認を組み合わせ、治療中に許容範囲を超えるズレが検出された場合には照射を一時停止し、再位置合わせ後に治療を継続する運用を可能にする。

すなわち本構成は、①治療前に「よく見て確実に合わせる」、②治療中は「動きを見張り、必要なら止める」、③定位照射に求められる精密な照射を「狙いどおりに当てる」という一連の流れを、より高いレベルで実装する点に特徴がある。こうした統合は国内でも先進的な構成であり、定位放射線治療で重要となる「再現性」の確保を強化し、正常脳や視神経、脳幹、脊髄など重要臓器への影響を抑える方向での精度向上が期待される。また、治療の確実性が高まることは、患者の不安軽減や治療室滞在時間の短縮など、負担軽減にもつながり得る。

現在、磯橋文明教授を中心に、放射線腫瘍医、看護師、診療放射線技師、医学物理士、事務職などの多職種チームによる放射線治療の診療体制を維持しつつ、さらなる強化をめざしてしている。今後も、高精度放射線治療を「安全に、確実に、継続的に」提供するとともに、20年以上にわたるNovalisでの定位放射線治療の経験を礎に、最新システムの特長を最大限に活かし、奈良県のがん医療の質向上に一層貢献していきたい。

### TrueBeam HyperSight with Novalis® Radiosurgery



本邦初導入

万能型高精度放射線治療装置・放射線治療用高精度患者位置決めシステム

Varian社製TrueBeam HyperSightは、本邦で初導入です。  
一般的な外照射から、IMRT (強度変調放射線治療)・SBRT (体幹部定位放射線治療)まで対応できる、いわゆる万能型高精度放射線治療装置です。Brainlab社製ExacTrac Dynamicは、赤外線カメラ、X線画像システム、サーマルカメラから構成され、一般外照射リニエックに設置することで、高精度な患者セットアップを実現します。  
頭部・脊椎に対する定位放射線治療計画ソフトウェアBrainlab Elementsを併用することで、迅速な治療計画と照射ワークフローが可能となり、安全な放射線治療を提供します。



ExacTrac Dynamic / 正確な患者位置決め & モニタリング  
X線画像誘導 (IGRT) に加え、新たに体表面放射線治療 (SGRT) 機能を搭載  
広範な適応症例に対応し、最適化されたワークフローによる迅速な治療が可能



Elements / 高精度な定位放射線治療計画ソフトウェア  
患者ごとに最適化された治療を実現する、特定疾患に特化した専用ワークフロー  
正常な組織への線量を低減するための迅速な治療計画と照射が可能

- ▶ **Power (高線量率)**  
最大2,400MU/分の高い線量率で治療時間を短縮
- ▶ **Precision (高精度)**  
スピーディなオプトイメージングによるIGRT (画像誘導放射線治療)、最小の患部を捉える高いアインセンタ位置精度  
HyperSight搭載のCBCTにより、画質向上および画像取得時間短縮
- ▶ **Versatility (万能型)**  
X線、電子線の一様な外照射から、IMRT・SBRTまで対応できる万能型高精度放射線治療装置

**奈良県立医科大学附属病院**

# 看護部の紹介

## 第4回 奈良医大特定行為フォーラムを開催しました

看護師特定行為支援センター 看護指導主査 野呂 佳子

11月29日、橿原市分庁舎4階 橿原市コンベンションルームにて、「広げよう特定行為・つながろう特定看護師」というテーマで、第4回奈良医大特定行為フォーラムを開催しました。

本フォーラムは、今年度新設された看護師特定行為支援センター主催のもと、特定行為研修修了看護師が日々の実践で感じている困難や疑問、不安を率直に共有し、互いの知識や経験を交換し合うことでネットワークづくりの場とすることを目的とし開催しました。

第1部の基調講演では、奈良県福祉保険部医療政策局 医師・看護師確保対策室 室長補佐の原敏恵先生より、特定行為研修修了者の推進のための支援について、奈良県の取り組みなど政策も含めてご講演賜りました。第2部の特別講演では、医師から見た特定行為研修修了者への期待として、看護師特定行為支援センター副センター長であり、地域医療学講座教授の赤井靖宏先生より、特定行為研修を受講することの意義や看護師としてのキャリアアップへの活用等について、力強いお言葉をいただきました。第3部の実践報告・意見交換会では、当院や他施設、訪問看護ステーションで活躍されている5名の特定行為研修修了者より、現場でどのような実践をされているか、発表いただきました。患者さまやご家族の目線に立ち、患者にとっての最善とは何か、模索しながら日々特定行為実践を重ねておられる様子をうかがい知ることができました。その後、ご参加いただいた方々と、グループワークで意見交換を行いました。各グループ内で「特定行為における安全とは何か」「特定行為の周知について」「特定行為研修修了者の育成について」など、各グループメンバーの興味のあるテーマで、理解を深めました。ディスカッションを通して、「特定行為の課題や活動について理解が深まった」「特定看護師の活かし方や周知していくためのヒントを得られた」というような声が聞かれました。特定行為における課題はまだ多く、今後の特定行為研修運営や特定行為実践につなげていく示唆を得る良い機会となりました。

これからも継続的に、多職種連携のあり方や特定行為の運用方法について情報共有を行い、施設間・職種間のネットワークづくりを促進することで、今後のより質の高い特定行為看護の提供体制構築につながることを願っています。



キャンパスニュース

## Campus News

9.10  
11.5

### 令和7年度キャンパスミーティングを開催しました

9月10日及び11月5日に令和7年度のキャンパスミーティングを畷傍山キャンパス実習研究棟3階会議室で開催しました。

学生代表が司会進行を担当し、学生からの要望に関する意見交換やプロフェッショナル宣言の改訂に関する協議を行いました。およそ1時間のミーティングには、医学科・看護学科各学年の総代と医学科長、看護学科長をはじめ各教育部長、広く学生支援に関わってくださる先生方、教育支援課職員が参加し、活発な意見交換が行われました。



ミーティングの様子

## 9.10 令和7年度 臨床PBL 症例報告会及び優秀賞授与式を執り行いました

臨床教育部長 庄 雅之

去る9月10日に臨床PBL 症例報告会を開催いたしました。今回は厳正な選考のもと優秀賞に選ばれた計6名の学生(写真左から内山千明さん、細木咲希さん、大東純太郎さん、岡田七海さん、北野和希さん、藤井祐紀さん)が指導医の同席のもとで発表を行い、表彰式を執り行いました。発表内容はいずれも非常に充実しており、質疑応答も活発に行われました。改めて本学学生の能力と資質の高さを実感する機会となりました。本年度温かくご指導いただきました教員の皆様に厚く御礼申し上げます。来年度以降も本報告会を継続してまいります。臨床教室の皆様におかれましては、今後とも本学の臨床実習のさらなる充実にご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



医学科6年 内山 千明

今回、「インフルエンザ罹患中に急性パーキンソニズムを呈した浸透圧性脱髄症候群」の症例について発表する機会をいただき、貴重な経験となりました。限られた時間の中で、背景や病態を理解し、分かりやすく伝えることを意識して準備を進めました。低Na血症は医師になれば誰もが遭遇しうる病態であり、その補正に伴う合併症の重篤さを改めて実感しました。同期や先生からの質問を通じて、自分の理解の不十分さも明らかとなり、今後さらに知識を深め臨床に活かしていきたいと思ひます。

医学科6年 大東 純太郎

この度はPBL 症例報告会にて「PRETEXT IIの肝芽腫に対し腹腔鏡下切除を行った一例」の発表の機会をいただきましてありがとうございました。

報告の作成に際しご指導いただきました消化器外科の黒田靖浩先生をはじめ消化器外科の先生方・スタッフの皆様、また発表の機会を設けてくださった庄雅之先生、若月幸平先生に感謝申し上げます。発表を通して多くの学びを得ることができ、この経験は必ず将来役に立つものと感じています。ありがとうございました。

医学科6年 北野 和希

この度、臨床PBL 症例報告会にて、「表在性非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍(SNADET)に対して、浸水下内視鏡的粘膜切除術(UEMR)を施行した一例」という演題を発表いたしました。発表に際し、ご指導を賜りました消化器内科 辻裕樹先生をはじめ、消化器内科の先生方ならびにスタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。今回の経験を励みに、卒業後も研鑽を積んでまいります。

医学科6年 岡田 七海

この度、臨床PBL 症例報告会にて、整形外科実習で経験した「血友病性足関節症に対する鏡視下滑膜切除術の一例」を発表しました。血友病性関節症では、関節内出血が遷延し滑膜炎を惹起、さらに新生血管による再出血で病態が進行します。治療には血友病の良好なコントロールが不可欠であり、奈良医大小児科の卓越したサポートのもと治療を行うことができました。今回の準備を通じて、EBMの重要性や未解明の課題の多さを再認識し、今後の研究の必要性を強く感じました。発表にあたってご指導くださった黒川先生、辻本先生、宮本先生をはじめ、整形外科教室の先生方に心より御礼申し上げます。



優秀賞の賞状を手渡される岡田七海さん



症例報告会で発表者に質問をしている様子

医学科6年 藤井 祐紀

「粒子線治療も行なった肝門部胆管癌」を発表させていただきました。本症例は治療期間が長く、期間中に様々な治療・処置が行われており、その一つひとつを説明すると持ち時間の倍くらい必要になってしまいますので、特に本症例で知ってもらいたいことは何かを指導医と相談し、「粒子線治療について」「胆道ドレナージ・ステントについて」を考察の核に据えて発表に臨ませていただきました。発表にあたりご指導いただきました消化器内科の西村典久先生に厚くお礼申し上げます。



症例報告会で発表する藤井祐紀さん

医学科6年 細木 咲希

発表者に選ばれたとお聞きした際、自分に務まるのか不安もありましたが、いただいたこの機会を活かそうとスライド作成や練習に励みました。疾患が稀少な疾患だったので、10分で説明するのは難しかったです。しかし、産婦人科学の牧野先生、上林先生に添削していただき、また、医局で発表する機会をいただけて多くの先生方からアドバイスをいただきました。今回の経験を通じて学会発表の基礎を学ぶことができ、貴重な機会となりました。

## 「日本女性会議 2025 橿原」に参加しました

日本女性会議とは、男女共同参画社会の実現に向けた課題の解決策を探るとともに、参加者相互の交流の促進や情報のネットワーク化を図ることを目的とした国内最大級の女性会議です。1984（昭和59）年に名古屋市で第1回が開催されて以来、様々な都市でそれぞれのテーマ、スローガンを掲げ開催されてきました。

このたび第40回大会が「日本女性会議 2025 橿原」として、10月3日（金）～10月5日（日）に奈良県橿原市で開催されました。主催は日本女性会議 2025 橿原実行委員会（橿原市）で、本学（総務広報課）も委員として参画しました。分科会1【健康・医療】未来に向かう医療～性差医療を知って健康寿命をのばす～では、細井裕司学長が座長を務められ、整形外科の川崎佐智子先生が講演をされました。また、分科会6【リプロダクティブ・ヘルス/ライツ】今を生きるあなたに知ってほしい「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」では、産婦人科学の木村文則教授が講演されました。女性研究者・医師支援センターからは須崎康恵副センター長が、分科会3【生き方×働き方「なりたい自分」】「女だから、男だから」ではなく、生きやすい社会にするために、株式会社 Will Lab 代表取締役の子安美和氏による司会進行のもと、パネリストとして登壇しました。須崎副センター長は医師の男女共同参画の現状について説明し、奈良県立医科大学の取り組みと課題を報告しました。分科会3では奈良県警察本部警務部警務課企画室長から男性職員の育児休業取得の報告等もあり、様々な分野で行われている男女共同参画推進の取り組みについて有益な情報交換の場となりました。性別に関わらず職場、家庭、地域社会等各々のコミュニティで活動の場を持つことは、自分のみならず他の人も生きやすい社会をつくるために欠かせないという認識を参加者とともに深める会議となりました。



細井学長



川崎先生

木村先生

須崎先生



分科会3の様子

会場ロビーには、MBT (Medicine-Based Town) 構想の成果を紹介する展示コーナーを設置し、全国から集まった参加者に向けて、本学および MBT コンソーシアムが推進する「医療・健康を基盤としたまちづくり」の取組を発信しました。研究成果や産学官連携の事例、地域と医療を結ぶ具体的なプロジェクトを紹介し、本学が地域社会の持続的発展に果たす役割について理解を深めていただく機会となりました。



## 10.16 神経変性疾患に関わる新たな相分離制御因子を発見

脳神経内科学 教授 杉江 和馬 未来基礎医学 准教授 森 英一朗

近年、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) では、生物学的相分離の制御異常が病態に関わることが示唆されていますが、その相分離制御の仕組みには未解明の点が多く残されています。この度、徳島大学の齋尾智英教授、東北大学の青木正志教授らとの共同研究を通じて、転写因子に広く見られるジンクフィンガードメイン (ZnF) が、ALS 病態に関わる相分離の調節因子として機能することを明らかにしました。本研究は、脳神経内科学の井口直彦先生と未来基礎医学・五十樓規嘉先生が中心となり、推進されました。今回の研究成果は、ALS をはじめとする神経変性疾患の病態解明、治療法開発につながることを期待されます。本研究成果は、国際科学誌『Nature Communications』に掲載されました。



10.24  
10.25  
12.9  
12.10

## 「リボンチャレンジ・ショーケース」 「万博リボンチャレンジ・ビジネス・エキスポ」 にMBT 開発成果を展示しました

～大阪・関西万博で出展技術の商談機会～

大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、未来社会を予感させる技術の紹介やデモンストレーションが行われました。万博終了後の10月24・25日にグラングリーン大阪 JAM BASE 3F で、12月9・10日にマイドームおおさかで、大阪ヘルスケアパビリオンで披露された出展品・技術を展示し、技術内容やデモに関する商談の場の提供や、万博期間中に万博に来られなかった方々へのPRの機会となりました。奈良医大とMBT コンソーシアムは、万博展示で連携した企業とともに展示ブースを構え、MBTの産業創生活動を紹介しました。MBTの活動内容や開発成果品に関心をもちた来場者から多くの質問や体験希望が寄せられ、今後の産学連携や事業化に向けた有意義な交流の場となりました。



## 10.26 防災訓練に参加しました

10月26日、奈良県広陵町で実施された近畿府県合同の奈良県防災総合訓練において、MBTは展示参加を行いました。本訓練には行政・企業・団体など約120機関が参加し、大規模災害を想定した実践的な訓練が行われました。MBTでは、コンソーシアム会員および連携機関が有する最新技術を組み合わせ、「災害時の情報・医療の回復～通信とモビリティの活用～」をテーマに、災害現場での通信確保や医療提供の在り方をデモンストレーションしました。衛星通信を活用した通信回復、オンライン診療車や移動薬局コンテナによる医療支援など、災害対応力の向上に資する取組を紹介し、多くの防災関係者との意見交換を通じて、本学およびMBTの活動を広く発信する機会となりました。



## 11.3 第36回日本臨床スポーツ医学会 学術集会で発表しました

医学科6年 岡田 七海

この度、第36回日本臨床スポーツ医学会学術集會に参加しました。本学会は「ライフパフォーマンスを高めるスポーツ医学」をテーマに、多様な専門領域から活発な議論が行われ、スポーツ医学の最新知見に触れる貴重な機会となりました。私は「育成年代女子新体操選手に対する外傷・障害予防の課題と対応策」というテーマで発表を行いました。将来、スポーツ医学に携わることを志す私にとって、研究の構想立案からデータ収集、そして学会発表に至るまで一連のプロセスを経験できたことは、大きな学びであり励みとなりました。本研究ならびに発表に際し、ご指導・ご助言を賜りました奈良医大スポーツ医学講座の小川先生に、心より感謝申し上げます。



## 11.3 奈良県脳卒中・心臓病等総合支援 センター公開講座を開催しました

当院では、奈良県と協力し、令和5年度から「奈良県脳卒中・心臓病等総合支援センター」を設置し、各種事業に取り組んでおります。その一環として、11月3日に公開講座を実施し、杉江教授（脳神経内科）、彦惣教授（循環器内科）、中川教授（脳神経外科）のご講演に加え、エバーグリーン社協賛のもと骨密度測定や健康相談会を実施しました。

会場の様子は12月5日の奈良テレビ放送「奈良フライデー9」に取材いただきました。杉江教授と彦惣教授に生放送でご出演いただき、減塩や運動など日ごろからの生活習慣の大切さを強調することで、循環器病予防の貴重な啓発の場となりました。



公開講座



奈良フライデー9放送の様子

10.25  
10.26

## 令和7年度奈良県立医科大学白檀生祭を開催しました

令和7年度 白檀生祭実行委員長 医学科5年 竹嶋 上晴

10月25、26日に「白檀生祭(かしふさい)」を開催いたしました。今年度は新設された畝傍山キャンパスで初の開催となり、「New AReA」をテーマに掲げて企画・運営を進めました。当日はアン ミカさん、ハリウッドザコシショウさん、ヒロ・オクムラさん、ラフ次元、20世紀の皆様をお招きしました。特にアン ミカさんの講演は大盛況で、収容人数600名の講堂が満席となりました。

また、医学科同窓会との共同企画である医学展示ブースでは、学生の指導の下お客様に医療行為を体験していただきました。さらに橿原市役所、株式会社カプコン、株式会社レッドブル・ジャパンのご協力により、カプコン社の人気ゲーム「ストリートファイター」とのコラボが実現しました。ゲームの体験ブースやオリジナル缶バッジ制作など、関連企画はいずれも多くの来場者で賑わいました。

初の実験が多い中で困難もありましたが、畝傍山キャンパスにふさわしい「白檀生祭」を無事に開催できました。今回の「白檀生祭」を通じて本学や地域に関心を持っていただけたなら幸いです。最後になりましたが、この場をお借りしてご支援・ご協力を賜りましたすべての皆様に、心より御礼申し上げます。



令和7年度 白檀生祭実行委員会

11.8

## 第9回臨床研究 県民公開講座を開催しました

臨床研究センターは、11月8日奈良県コンベンションセンターにて、第9回奈良県立医科大学附属病院「未来への医療 県民公開講座-オートファジーと生殖医療の最前線-」を開催しました。武内治郎講師(臨床研究センター)による「奈良県で創る明日からの医療」に続き、中村修平教授(生化学)からは、「オートファジーとは? : 最新の研究から見てきた健康寿命延伸への可能性」、木村文則教授(産婦人科学)からは、「赤ちゃんを迎えるための心と体の準備-生殖医療の立場から-」の講演をいただきました。今回は、会場参加によるFormsを用いたQ & Aセッションを実施しました。講演会の様子は奈良テレビ放送にて報道されました。



Q&Aセッションの様子



(左から) 浅田潔准教授、木村文則教授、中村修平教授、笠原正登教授、武内治郎講師

11.14  
11.16

## 第43回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会の全関西選抜チームで先発投手として出場!

医学科5年 佐々木 陸

この度、大学準硬式野球の全関西選抜メンバーに選出していただきました。医歯薬学系からは十数年ぶりかつ唯一の選出となり、大変光栄に思っております。初戦の全北海道選抜戦では先発として2回を無安打無失点、3奪三振で抑え、続く準決勝の全九州選抜戦でも5回を2失点と先発投手としての役割を果たすことができました。医歯薬学系所属の選手が2試合連続で先発を任されることは極めて異例とのことで、大きな自信につながりました。また、選抜チームでは多くのことを学び、大変充実した時間を過ごすことができました。今回の経験を糧に、今後も学業と野球の両立に努め、奈良県立医科大学野球部により貢献できるよう一層精進して参ります。



11.9

## 着物でジャズ今井町 2025 を開催しました

11月9日に今井町順明寺にて着物でジャズ今井町 2025 を開催しました。本学は医学を基礎とするまちづくり (Medicine-based town: MBT) を進めており、その一環として奈良県橿原市にある今井町で、アート×医療で健康長寿を推進するという目的です。伝統あるまちで、文化、芸術そして医療を融合させ“心のバリアフリー”を体験できればと考えています。伝統と文化を守り続けてきた今井町並み保存会の方々と奈良県立医科大学の関係者、また有志の方々と協力して、企画・開催しています。演者・スタッフは全員着物 (和装) でお出迎えました。当日は、若林梅香さん書道パフォーマンスに始まり、奈良医大軽音楽部ハードストリームオーケストラと奈良医大 OB を中心とした The Barrels の演奏がありました。ゲストの K-106・LUCKY ComeComeS・音の庭 DUO (SOA ×伊藤シュンペイ) の素晴らしいライブに会場は魅了されました。地元の名産の出店の他、口腔ケアの医療ブースも出店しました。司会を担当された狸山みほさんは、フレッシュで親しみ感のあるトークで会場を盛り上げてくれました。今回も昨年同様に会場入り口に BOX を設置し共催金として入場料をいただくようにしましたが、多くの方々にご協力をいただきました。市民の皆さんの健康維持の一助になればと期待します。



K106



奈良医大軽音楽部ハードストリームオーケストラ

11.26  
11.27

## よい仕事おこしフェアに出展しました

11月26日、27日の2日間、東京ビッグサイトにおいて「2025“よい仕事おこし”フェア」が開催され、全国から500社を超える企業が参加しました。本フェアは、東日本大震災からの復興支援を目的に、全国47都道府県の信用金庫で構成される実行委員会により開催されているもので、今年で13回目を迎えました。奈良県立医科大学とMBTコンソーシアムは共同で展示ブースを出展し、「医学の知識を活用した産業創生」をテーマにMBTの活動を紹介するとともに、会員企業4社が開発した成果商品を展示・販売しました。医療・健康分野の知見を産業へとつなげる取組を来場者に広く発信し、企業や関係者との交流を通じて、今後の連携や社会実装につながる貴重な機会となりました。



11.26

## リサーチ・クラークシップでの研究成果が日本血液学会英文誌に掲載されました

医学科5年 宮武 知也

このたび、小児科での研究成果が論文として「International Journal of Hematology」に掲載されました。

ヒルドイド®は、日本において皮脂欠乏症の治療に広く使用されている外用薬ですが、添付文書上では出血性血液疾患 (血友病など) の患者には禁忌とされています。一方、実臨床の現場では、保護者の判断により使用されているケースもみられますが、これまで明らかな出血イベントの報告はありません。本研究では、主に血友病患者由来の市販血漿を用い、ヒルドイド®の抗凝固作用について検討しました。医学科2年次のリサーチ・クラークシップから研究に携わせていただき、このような形で研究成果を論文として発表できましたことを大変光栄に思っております。本研究の遂行にあたり、ご多忙の中、ご指導くださいました武山先生、野上教授をはじめとする小児科の先生方、ならびにラボテクニシャンの皆様にご心より御礼申し上げます。

論文名: Comprehensive anticoagulant effect of heparinoid in blood samples from patients with hemophilia



## 11.29 知事との意見交換会を開催しました

「知事と奈良県の医療について意見交換を行いたい!」という本学学生からの要望に、山下奈良県知事が応じてくださり、「医療のミライ会議 in 奈良」を畝傍山キャンパスで開催したところ、100名を超える学生・教職員に参加いただきました。はじめに「奈良県の医療の現状と今後」をテーマに、知事から講演いただいたあと、学生や若手医師・看護師とのワークショップが開かれました。この中で、若手医師から県の地域医療構想について、「断らない病院や面倒見のいい病院など機能を明確化して役割分担するのはありがたい。」との意見に対して、知事が「医療関係者等とコミュニケーションを取りつつ、人口構造や医療需要の変化、国の政策の方向性を踏まえて体制を描くのが県の役割。」と答えるなど、活発な議論が行われました。奈良県の医療をより良くするために考え、行動するきっかけとなる有意義な時間でした。



ワークショップの様子

## 12.2 医学部医学科「白衣授与式」を行いました

12月2日に、医学科4年生116名の白衣授与式を執り行いました。

始めに細井学長から医師としての将来展望について講話があり、その後、代表学生4名に「臨床実習生(医学)証」が手渡されました。続いて、学長・副学長・附属病院副院長・同窓会副会長からそれぞれに白衣が授与され、学生は医学科同窓会から寄贈された真新しい白衣に袖を通したのち、吉川附属病院長からの訓示、浅田同窓会副会長から激励のお言葉をいただきました。最後に、学生を代表して総代の和田泰輔さんが、これから始まる臨床実習で、真摯に実習に取り組み、医師としての自覚と責任を養っていくことを誓いました。



本学講堂にて

## 12.13 AVWS に対する革新的診断・治療開発に向けた共同研究を開始

血液内科学 教授 松本 雅則  
循環器内科学 教授 彦惣 俊吾

本学は奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」と、後天性フォン・ヴィレブランド症候群(Acquired von Willebrand Syndrome: AVWS)に対する標的治療薬および新規診断技術の開発に向けた共同研究を開始しました。AVWSは、血液凝固に重要なフォン・ヴィレブランド因子が後天的に減少または機能低下することで生じる、まれな出血性の病態です。とくに、体外循環補助装置(人工心肺や心臓補助装置など)を使用する際には、機械的な血流の影響により本症が発症しやすいことが知られています。本研究を通じて、増加する臨床ニーズに応える革新的アプローチを提供し、希少疾患領域における国際的な医療価値創出を目指します。



記者会見の様子

## 12.16 人材交流在宅看護教育プログラムの履修証明書を授与しました

12月16日に「人材交流在宅看護教育プログラム」の受講者が全カリキュラムを修了し、小竹在宅看護学教授から、「履修証明書」が手渡されました。このプログラムは、訪問看護師及び病院看護師を対象としており、在宅・病院における看護の実際を経験し、互いの現状理解を深めることで、在宅看護のリーダーを育成することを目的とした人材交流のプログラムです。9月1日から約3ヶ月間、講義や演習の他、附属病院の地域連携・入退院支援センターなどで実践を重ねました。今後、修了生がこのプログラムで得た知見をそれぞれの現場で活かすことにより、病院と訪問看護ステーション間の連携が強化されることを期待しています。



# Winner Report

9.12

## 第14回日本認知症予防学会 学術集会で浦上賞を受賞しました

脳神経内科学 助教 塩田 智

9月12日から14日に開催されました第14回日本認知症予防学会学術集会で、浦上賞(学会賞)を受賞しました。テーマは「認知症患者の身体的自立度と介護者負担に関する検討」でした。浦上賞は一般演題発表の中から特に優秀な発表について授与される賞であり、受賞の機会を頂き大変光栄に思います。ご指導いただきました杉江和馬教授に御礼を申し上げますとともに、この受賞を糧として今後の更なる研究の発展に努めます。



9.13

## 日本麻酔科学会第71回関西支部学術集会上において最優秀演題賞を受賞しました

麻酔科学 准教授 田中 暢洋

9月13日に開催された日本麻酔科学会第71回関西支部学術集会上において、「ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術での気管挿管・気腹時における Nociception Level Index の経時変化解析 -NOLDOR サブ解析-」を発表し、最優秀演題賞を受賞しました。麻酔中の侵害受容刺激と鎮痛薬のバランスを見る侵害受容指標の Nociception Level (NOL) に関する特定臨床研究を行いました。気管挿管と気腹開始時の NOL の経時変化を ITS analysis という解析方法で報告し、その解析方法を含めた新規性が評価されました。今回の受賞に際し、本研究にご協力いただいた泌尿器科の先生方、C4病棟の皆様、共同研究者の皆様、ご指導を賜りました小津有輝先生、川口昌彦先生に深謝申し上げます。



10.12

## 第29回日本心不全学会 YIA最優秀賞を受賞しました

循環器内科学 診療助教 経堂 篤史

第29回日本心不全学会にて、日本最大規模の心不全レジストリを使用した心不全の機械学習分類を行った研究により Young Investigator Award 最優秀演題賞を受賞いたしました。本研究では JROADHF データを用いた機械学習により、左室駆出率に依存せず、より予後層別化に有効な「Advanced Low Output」「Early Afterload Mismatch」「Elderly HFpEF-Like」、3つの新規フェノタイプを確立しました。従来の左室駆出率基準の分類と比較し、総ビリルビン値や左室径等の重要性を示した本成果は、2025年米国内臓病協会でも報告するなど心不全の個別化医療への貢献が期待されます。本研究の遂行にあたりご指導いただきました彦惣教授、中田助教、ならびに全ての共同研究者の皆様にご心より感謝申し上げます。



10.15

## 第63回日本癌治療学会学術集会上で最優秀演題賞を受賞しました

泌尿器科学 前立腺小線源治療 講師 中井 靖

第63回日本癌治療学会学術集会(10月16~18日)にて、全国の小線源治療施設が共同で構築した、日本のLDR-BTを代表する世界最大級の患者数と長期観察期間を備えたビッグデータ研究・J-POPS2の解析結果を発表しました。本研究は3,509例・中央値11.8年という国際的にも稀少な規模を基盤とし、治療成功期間(FFTF)を包括的に評価した点が高く評価され、プレナリーセッション(最優秀演題賞)に採択されました。本成果は日本のLDR-BTの精度と価値を世界に示す重要な成果であり、協力いただいた全国の先生方に深謝いたします。



10.17

## 第66回日本脈管学会学術総会において 第4回高安右人賞を受賞しました

放射線診断・IVR学 准教授 市橋 成夫

このたび、大変光栄なことに、第66回日本脈管学会学術総会で「第4回高安右人賞」を受賞いたしました。これまで末梢動脈・大動脈疾患のIVRに従事してまいりましたが、その研究活動に対しての受賞です。これまで長年に渡りご指導いただきました吉川病院長、田中教授、日々の診療や研究活動を支えていただいている仲間、友人、家族に感謝いたします。



左より、当院 病院長 吉川公彦先生、市橋成夫、松原徳洲会病院 大動脈ステントグラフト・血管内治療科 部長 阪口昇二先生と受賞記念撮影

10.29

## SGI2025においてDistinguished Oral Presentation Awardを受賞しました

放射線診断・IVR学 医員 木原 綾乃

このたび、10月28日から29日に韓国・ソウルで開催されたThe 18th Annual Meeting of the Society of Gastrointestinal Intervention (SGI 2025) において、「Quantitative 4D-CT analysis of portal venous flow before and after B-RTO: A predictor of post-treatment hepatic functional reserve」について発表し、名誉ある Distinguished Oral Presentation Award を受賞いたしました。本研究では、B-RTO症例における治療前後の門脈血流を、4D-CT (320列 Area-detector CT) を用いて定量化し、門脈血流の変化量と肝予備能の関連性を報告したものといたします。ご指導いただきました國近瑛樹先生、田中利洋教授、ならびに日頃より多大なるご指導・ご支援を賜っている皆様に、心より御礼申し上げます。



10.31

## 第35回日本耳科学会総会でYoung Investigator Awardを受賞しました

耳鼻咽喉・頭頸部外科学 助教 阪上 雅治

10月29日から11月1日に開催された第35回日本耳科学会総会にて、演題「突発性難聴後にめまい症状が遷延する症例における神経耳科学的検査及びMRI所見の検討」に対し Young Investigator Award を受賞しました。本研究では、突発性難聴の中でも後半規管障害と高音域難聴の併存は、前庭蝸牛動脈領域の血流障害という共通の病態基盤を示唆することを報告しました。ご指導いただいた耳鼻咽喉・頭頸部外科の北原紘教授に深謝いたします。



11.7

## 第84回日本公衆衛生学会総会において口演賞を受賞しました

公衆衛生学

10月29日～31日に開催の第84回日本公衆衛生学会総会において、当講座と共同研究を行っている森井 康博 氏 (国立保健医療科学院 保健医療経済評価研究センター 研究員) が「医療機関のキャパシティを考慮した訪問医療サービスの地理的アクセシビリティの分析」で口演賞を受賞しました。

森井氏は本学非常勤講師 赤羽 学 氏 (国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部 部長) らの研究グループの一員で、共同演者として公衆衛生学の教授 今村知明、准教授 次橋幸男、助教 西岡祐一が参加しています。公衆衛生学と国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部は、以前より奈良県のKDB (国民健康保険・後期高齢者医療データベース) を用いた分析研究において共同研究を実施しています。今回の受賞演題は、奈良県KDBに含まれる在宅医療・介護に関する情報を地理情報システム (GIS) を用いて解析し、医療従事者の移動距離などを指標とした地理的アクセシビリティを評価したもので、今後は最適な需要・供給バランスの検討に資する研究へと発展させていく予定です。



# Winner Report

11.8

## VENTI2025で優秀発表として表彰されました

放射線診断・IVR学 講師 岩越 真一

VENTI (Vascular Embolotherapy and Nerve interventions Targeting Inflammation and pain) 2025が開催され、世界20カ国以上から、血管内治療、疼痛治療、IVR分野の専門医師が一堂に会しました。膝や肩の痛みのカテーテル治療を中心に、講演、ライブデモンストレーション、実践トレーニングが行われ、運動器カテーテル疼痛治療(TAME)についての国際研究会となりました。会の最後まで立ち見が出るほどの盛況ぶり、TAMEへの期待の高さを感じました。今後、この治療が保険適応になれば、さらに日本の医師の参加も増えると思いました。

今回は治療前後における血流変化を報告した発表で、優秀発表として表彰していただきました。研究に協力していただいた先生方や田中利洋教授にお礼申し上げます。

また、当院でのTAME治療において、いつもご指導いただいている整形外科教授 河村健二先生にも、この場を借りてお礼申し上げます。



11.12

## 武田科学振興財団・医学系研究助成に採択されました

未来基礎医学 助教 五十棲 規嘉

この度、「筋萎縮性側索硬化症(ALS)原因タンパク質の異常凝集を阻害する垂鉛フィンガードメインの作用メカニズムの解明」と題した研究課題が、武田科学振興財団・医学系研究助成(200万円)に採択されました。ALSは神経が障害されることで筋力の低下や筋肉の萎縮をきたす進行性の難病です。現在も有効な治療法が確立されておらず、病態の解明と新規治療戦略の開発が求められています。本研究では、新たに発見した「ALS原因タンパク質の凝集を阻害する機能」を持つ垂鉛フィンガードメインに着目し、その作用メカニズムを明らかにすることで、ALSに対する新たな予防・治療法の実現につなげることを目指します。



11.14

## 生物学的精神医学学会において若手研究者育成プログラム奨励賞を受賞しました

精神医学 助教 西 佑記

この度、BPCNPNP2025合同年会において発表した演題「マクロファージのシナプス貪食能に着目した精神疾患病態解析」を評価いただき、第14回若手研究者育成プログラム奨励賞を受賞しました。

本研究は精神疾患患者の末梢血由来マクロファージにiPS細胞由来の神経細胞から抽出したシナプトソームを貪食させ、その貪食能を評価し、それに関わる因子を同定しました。この結果は、精神疾患におけるシナプス・ミクログリア異常仮説を支持するもので精神疾患の病態解明につながりうるものです。

日頃より厚くご指導、ご協力いただいております全ての方々はこの場をお借りし深く感謝申し上げます。



11.15

## 日本生物学的精神医学会国際学会発表奨励賞を受賞しました

精神医学 助教 池原 実伸

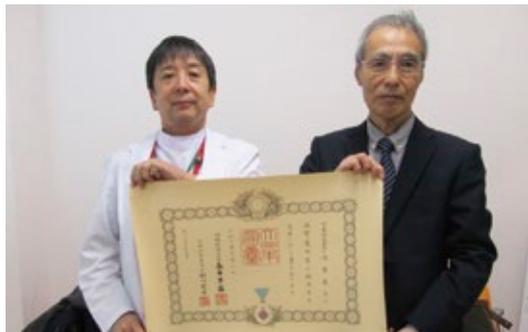
この度、CINP 2024 WORLD Congressにおいて発表した演題「Effects of neuromodulation on local prefrontal circuits in mouse models for psychiatric disorders」を評価いただき、2024年度日本生物学的精神医学会国際学会発表奨励賞を受賞しました。日本精神神経学会の国際学会発表賞に続き本学会でも評価いただき、大変有難く存じます。これは複数のモデルマウスを用いて、前頭前野局所回路への電気刺激が与える影響とその神経基盤を検討したもので、ニューロモデュレーションの神経生物学的メカニズムの解明に貢献し、精神疾患の新たな治療戦略としての可能性を示すものです。日頃より厚くご指導いただいております山室和彦先生をはじめ、多くの先生方にこの場をお借りし深く感謝申し上げます。



## 11.21 令和7年秋の叙勲を受章されました

叙勲は、国家または公共のため功労のあった方を対象に授与されています。

11月3日に令和7年秋の叙勲受章者の発令があり、元中央臨床検査部技師長（H20.4.1～H24.3.31）の波賀 義正氏が瑞宝双光章を受章されました。11月12日に東京の国立劇場において伝達式が行われました。瑞宝双光章の受章、心からお祝い申し上げます。



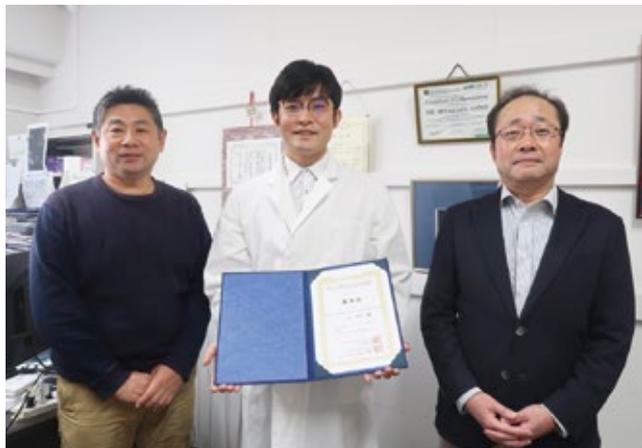
法医学 名誉教授 羽竹勝彦先生が、令和7年秋の叙勲において 瑞宝小綬章を受章され、11月21日に皇居にて授与されました。羽竹先生は、平成7年から平成31年までの24年間にわたり教育・研究に尽力されました。その間、約2,500体に及ぶ法医学解剖を実施し、事件・事故の真相解明および社会の安全と公正の確保に大きく貢献されました。これらの長年にわたる卓越した法医学的実務と教育への寄与が高く評価され、今回の受章となったものです。法医学の社会的重要性が広く認められたことは教職員一同の大きな喜びです。羽竹名誉教授のこれまでのご労苦に深く敬意を表しますとともに、今後ますますのご健勝をお祈り申し上げます。



## 11.30 第95回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第73回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会学部生セッションにおいて優秀賞を受賞しました

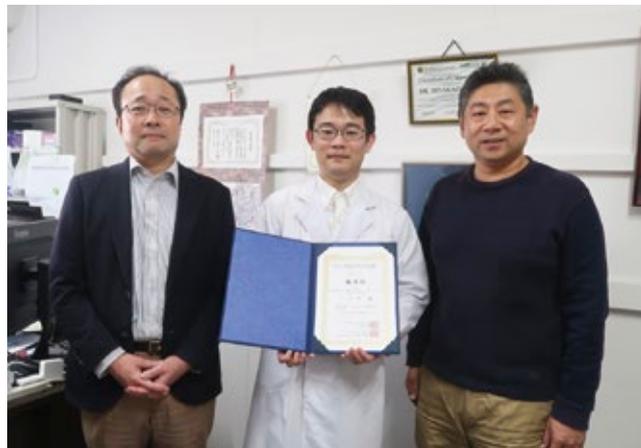
医学科6年 谷口 琉星

福岡国際会議場にて開催された第95回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第73回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会における学部生セッションにて、「本邦の家畜および畜産農家から分離されたグラム陽性球菌の遺伝学的特徴の解析」という演題で優秀賞を受賞いたしました。本研究では、特に *Mammaliococcus sciuri* という菌種に注目し、その遺伝学的特徴の解明ならびに、ヒトと家畜間における菌株伝播の可能性について解析を行いました。本成果は、日頃より熱心にご指導くださった微生物感染症学講座 教授 矢野寿一先生、准教授 中野竜一先生をはじめ、研究に携わっていただいた多くの先生方のご支援の賜物です。ここに深く感謝申し上げます。



医学科6年 山口 晃一

第95回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第73回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会（11月28日～11月30日開催）の学部生セッションにて、優秀賞を受賞しました。受賞演題は、「本邦医療機関の排水から分離されたIMP-1産生 *Brucella* 属（旧 *Ochrobactrum* 属）菌の遺伝学的特徴の解析」です。本研究は排水から分離された菌を用いて、実験とゲノム構造解析により薬剤耐性菌伝播の実態を明らかにするというものです。今回の受賞を励みとしてこの研究で得た知見や経験を活かし、一層努力していく所存です。本発表にあたりご指導を賜りました矢野教授、中野准教授をはじめ、微生物感染症学講座の皆様方にお礼を申し上げます。



## Winner Report

11.16

第66回日本児童青年精神医学会総会  
において優秀発表賞を受賞しました

精神医学 医員 平井 靖明

第66回日本児童青年精神医学会総会において、「18歳未満の食行動症および摂食症群の患者における入院/再入院/死亡リスクについての検討」の発表が評価され、「優秀発表賞」を受賞することができました。今後も児童青年精神医学の発展の一助となるべく邁進していきたいと考えております。この場をお借りして岡田俊教授をはじめ、ご指導いただいた先生方に心より感謝申し上げます。



11.16

第20回日本助産学会学術賞を  
受賞しました母性看護学/女性学研究科  
女性健康・助産学 准教授 木村 奈緒美

この度、第20回日本助産学会学術賞を受賞しました。今回の受賞論文のテーマは、「Promotion of parental roles and improvement of mental health using an online program: A randomized controlled trial」です。この研究は、親役割促進とメンタルヘルスの促進を目的に、心理学的要因を取り入れたプログラムを作成し、その有用性を無作為化比較試験(RCT)で検証したものです。介入した結果、親役割の促進と精神的健康度が維持されることを証明しました。助産学の学術領域の発展と助産ケアの実践に寄与する研究として高く評価されました。研究参加いただきましたお母さま方に厚く御礼申し上げます。

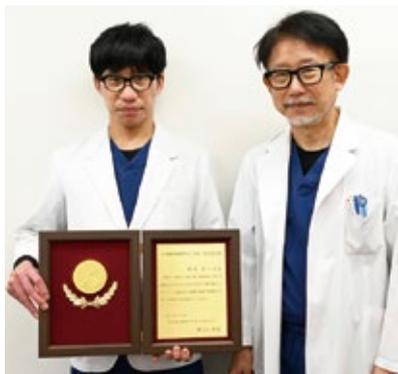


12.4

日本臨床麻酔学会第45回大会において  
小坂二度見記念賞を受賞しました

麻酔科学 学内講師 位田 みつる

12月4日から6日にかけて開催された日本臨床麻酔学会第45回大会において、「術後の回復の質と機能障害に関する検討およびこれらに対する予防的な取り組み」という演題により、小坂二度見記念賞を受賞いたしました。本受賞の対象となった取り組みは、2015年に採択していただいた「奈良県健康長寿大規模コホート研究助成事業」を基盤とするものであり、手術後患者の回復過程を検討するとともに、術前からの介入が術後アウトカムにどのような影響を及ぼすかを検討してきた研究です。長期間にわたり、多くの医師、看護師、臨床工学技士、大学院生と協力しながら進めてきた成果として、このような賞をいただけたものと受け止めております。本分野は発展途上ではありますが、今後も手術を受けられる患者さんのアウトカム改善を目指し、継続して取り組みを進めてまいります。なお、本賞は形式上は個人に対する受賞ではありますが、実際には本研究に関わってくださった皆様との協働によって得られたものです。本取り組みにご尽力いただいたすべての関係者の皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

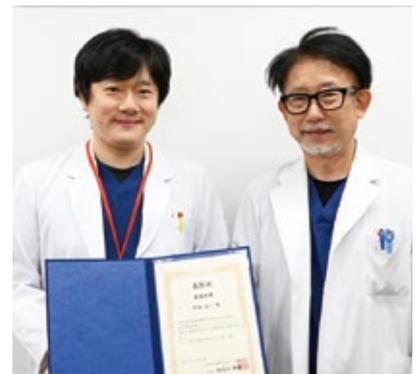


12.4

日本臨床麻酔学会第45回大会に  
おいて最優秀演題賞を受賞しました

麻酔科学 学内講師 甲谷 太一

12月4日から6日に開催された日本臨床麻酔学会第45回大会において、「大動脈弁狭窄症患者の麻酔導入時にレミマゾラムとプロポフォールが心拍変動に及ぼす影響：無作為化比較試験」という演題により、最優秀演題賞を受賞いたしました。本研究は新規静脈麻酔薬であるレミマゾラムが自律神経系に及ぼす影響について、心拍変動解析を用いて検討したものであり、周術期循環管理における麻酔薬選択の一助となる知見を提示することを目的としたものです。今後も引き続き、麻酔薬が循環動態および自律神経機能に与える影響について、臨床研究を通じて検討を重ねてまいりたいと考えております。このような栄誉ある賞を賜ることができましたのは、共同研究者としてご指導をいただきました麻酔科川口先生、田中先生、位田先生、内藤先生をはじめ、麻酔科学教室の諸先生方、ならびに本研究の遂行にあたり多大なるご協力をいただきましたTAVIハートチームのみなさまのご支援の賜物であります。ここに謹んでご報告申し上げますとともに、みなさまに厚くお礼申し上げます。



# 令和7年度 外部資金獲得状況

162件 671,903,988円 (間接経費を含む) (令和7年12月1日現在) ※文部科学省科学研究費助成事業を除く

## (1) 厚生労働科学研究費補助金、こども家庭科学研究費補助金

### ① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	レセプト情報・特定健診等情報を用いた医療保健事業・施策等のエビデンス構築等に資する研究
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	新型コロナウイルス感染症拡大収束後の食品等事業者の新たな営業形態にも対応した食品防御の推進のための研究
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究
医薬品医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	薬剤部	部長	池田 和之	医療機関等における医療用医薬品バーコードの利活用均てん化に関する研究
厚生労働科学特別研究事業	薬剤部	部長	池田 和之	セルフメディケーション推進のための OTC 医薬品データの利活用に係る研究
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	感染症危機管理オペレーションの高度化に関する研究
障害者政策総合研究事業	精神医学	教授	岡田 俊	強度行動障害を有する知的障害・発達障害に関わる医療従事者向け研修プログラム開発に向けた研究
医薬品医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	科学的エビデンス等に基づき医療環境に応じた適切な輸血療法実施についての研究
厚生労働科学特別研究事業	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	かかりつけ医機能が発揮される制度の円滑な施行に向けた地域の協議に資するデータブックに必要な指標の策定のための研究
厚生労働科学特別研究事業	感染症内科学	教授	笠原 敬	薬剤耐性 (AMR) アクションプランの目標達成に向けた手指衛生の実効的向上を目指す研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	呼吸器内科学	教授	室 繁郎	健康日本 21 (第三次) の目標達成へ向けた COPD 死亡率低下戦略-地域・社会との連携による普及啓発と体制整備

### ② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	レセプト情報・特定健診等情報を用いた医療保健事業・施策等のエビデンス構築等に資する研究	公衆衛生学 今村 知明
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授	次橋 幸男	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究	公衆衛生学 今村 知明
		助教	西岡 祐一		
		助教	山崎 一幸		
エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	HIV 感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究	関西医科大学 野田 龍也
		助教	山崎 一幸		
	小児科学	教授	野上 惠嗣		
		准教授	萩原 建一		
厚生労働科学特別研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	かかりつけ医機能が発揮される制度の円滑な施行に向けた地域の協議に資するデータブックに必要な指標の策定のための研究	公衆衛生学 西岡 祐一
		助教	山崎 一幸		
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	公的データベースを利用したワクチンの安全性と有効性を評価する手法に関する研究	国立健康危機管理研究機構 鈴木 基
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業	小児科学	助教	谷 有貴	ドナーミルクを安全かつ持続的に供給するための体制を整備するための研究	昭和大学 水野 克己
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	スモンに関する調査研究	国立病院機構鈴鹿病院 久留 聡
		医員	眞野 智生		
難治性疾患政策研究事業	循環器内科学	教授	彦惣 俊吾	特発性心筋症の診断・ゲノム情報活用に関する調査研究	大阪大学 坂田 泰史
慢性の痛み政策研究事業	健康管理センター	講師	山室 和彦	高齢期就労者を含む多様性の受容と慢性の痛み患者への包括的就労支援策の開発と実践国際的視点の導入	順天堂大学 山田 恵子
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	感染症内科学	教授	笠原 敬	成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究	国立健康危機管理研究機構・ 国立感染症研究所 明田 幸宏
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	看護職員の需給推計方法検討のための研究	山梨大学 小林 美亜
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	NDB のユーザビリティ向上を通じてクラウド上でのデータ二次利用を推進するための研究	浜松医科大学 明神 大也
政策科学総合研究事業 (統計情報総合研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	ICD-11 の適用を通じて我が国の死因・疾病統計の向上を目指すための研究	国立社会保障・人口問題研究所 林 玲子
難治性疾患政策研究事業	整形外科	准教授	谷口 晃	早老症の医療水準向上と予後改善を目指す集学的研究	千葉大学 前澤 善朗
エイズ対策政策研究事業	小児科学	教授	野上 惠嗣	HIV 感染症および血液病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究	国立病院機構大阪医療センター 渡邊 大
難治性疾患政策研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	難治性血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究	順天堂大学 田村 直人
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	睡眠時間・睡眠休養感の確保に影響する就寝環境・生活習慣の客観的評価手法および適切な睡眠取得のための介入・環境整備法の開発	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 栗山 健一
障害者政策総合研究事業	精神医学	教授	岡田 俊	療育手帳の交付判定及び知的障害に関する専門的な支援等に資する知的能力・適応行動の評価手法の開発のための研究	中京大学 辻井 正次
難治性疾患政策研究事業	皮膚科学	教授	新熊 悟	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	新潟大学 阿部 理一郎
長寿科学政策研究事業	公衆衛生学	准教授	次橋 幸男	僻地、中山間地域、小規模自治体を中心とした医療・介護連携に係る指標の検討に資する研究	国立保健医療科学院 赤羽 学
		助教	西岡 祐一		
難治性疾患政策研究事業	糖尿病・内分泌内科学	教授	高橋 裕	間脳下垂体機能障害に関する調査研究	東京女子医科大学 大月 道夫
長寿科学政策研究事業	消化器内科学	博士研究員	赤羽 たけみ	僻地、中山間地域、小規模自治体を中心とした医療・介護連携に係る指標の検討に資する研究	国立保健医療科学院 赤羽 学
長寿科学政策研究事業	消化器内科学	博士研究員	赤羽 たけみ	訪問系サービスにおける LIFE の活用に向けた評価指標の開発に資する研究	国立保健医療科学院 赤羽 学
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	循環器病対策の進捗評価法の確立を目指した研究	国立循環器病研究センター 飯原 弘二
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	希少難治性筋疾患に関する調査研究	東北大学 青木 正志
難治性疾患政策研究事業	糖尿病・内分泌内科学	教授	高橋 裕	成長障害・性分化疾患を伴う内分泌症候群の診療水準向上を目指す調査研究	大阪母子医療センター 川井 正信
難治性疾患政策研究事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 眼科学	助教 講師	森本 千裕 西 智	先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究 (23FC1056)	東京医療センター 松永 達雄

# Winner Report

慢性の痛み政策研究事業	ペインセンター	病院教授	渡邊 恵介	慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	高知大学 池内 昌彦
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	自己免疫疾患に関する調査研究	北海道大学 瀧美 達也
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授 助教	今村 知明 山崎 一幸	匿名レセプト情報等を用いた被保護者の健康課題に関する実態把握と効果的な疾病予防・重症化予防等に資する研究	浜松医科大学 明神 大也
長寿科学政策研究事業	公衆衛生学	准教授 助教	次橋 幸男 西岡 祐一	訪問系サービスにおける LIFE の活用に向けた評価指標の開発に資する研究	国立保健医療科学院 赤羽 学
肝炎等克服政策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝がん・重度肝硬変の医療水準と患者のQOL向上等に資する研究	東京大学 小池 一彦
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策総合研究事業	循環器内科学	教授	彦惣 俊吾	我が国における心血管疾患の回復期および維持期の診療の現状と課題	鳥取大学 山本 一博
がん対策推進総合研究事業	産婦人科学	教授	木村 文則	小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療における心理社会的支援体制の構築と安全な長期検体保管体制の構築を目指した研究—サイバパーシップ向上を志向して	聖マリアンナ医科大学 鈴木 直
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策総合研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	予防・健康づくりのための住環境整備のための研究	北海道大学 林 基哉
地域医療基盤開発推進研究事業	母性看護学	教授 准教授	五十嵐 稔子 木村 奈緒美	助産基礎教育における臨地実習の有り方に関する研究	札幌医科大学 正岡 経子
難治性疾患政策研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	血液凝固異常症等に関する研究	金沢大学 森下 英理子
厚生労働科学特別研究事業	めまい・ 難聴センター	病院教授	西村 忠己	軽度・中等度難聴の診療の手引きの作成に向けた研究	京都大学 大森 孝一
難治性疾患政策研究事業	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科学	教授	北原 紘	難治性聴覚障害に関する調査研究	信州大学 宇佐美 真一
厚生労働科学特別研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	新規技術の技術料決定における原価計算方式や有用性等の定量的評価に係る研究	浜松医科大学 明神 大也
難治性疾患政策研究事業	泌尿器科学	博士研究員	鳥本 一匡	間質性膀胱炎の登録と診療ガイドラインに関する研究	東京大学 本間 之夫

## (2) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

### ① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
革新的先端研究開発支援事業	生化学	教授	中村 修平	リンソームストレス応答の破綻による神経・筋疾患発症機序の解明と超早期バイオマーカー開発	生化学 中村 修平
革新的がん医療実用化研究事業	がんゲノム・腫瘍内科学	教授	武田 真幸	MET 阻害剤に獲得耐性を示した MET 遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌に対するカボザンチニブの第 2 相試験	がんゲノム・腫瘍内科学 武田 真幸
難治性疾患実用化研究事業	発生・再生医学	教授	栗本 一基	封入体筋炎の個別の病理像に直結した高品質な 1 細胞遺伝子発現解析による病態解明と治療標的の創出	発生・再生医学 栗本 一基
橋渡し研究プログラム	血液内科学	教授	松本 雅則	備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の医師主導治験	血液内科学 松本 雅則
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝硬変予後不良因子に対する vWF-ADAMTS13 制御に基づいた病態解析と治療開発	消化器内科学 吉治 仁志
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	准教授	尾上 健児	劇症型心筋炎の予後改善を目指した病態解明・データベース構築・AI 診断ツールの研究開発	循環器内科学 尾上 健児
橋渡し研究プログラム	産婦人科学	講師	前川 亮	体外受精卵 (胚) の着床率向上を目的とした胚のタイムラプス画像機械学習に基づく良好胚および正常核型胚スクリーニング法の開発	学校法人国際医療福祉大学 小室 一成
医薬品等規制調和・評価研究事業	皮膚科学	教授	新熊 悟	薬剤性間質性肺炎および重症薬疹の新規診断バイオマーカーの適格性確認に関する研究	特定非営利活動法人 日本小児がん研究グループ 康 勝好

### ② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
革新的先端研究開発支援事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	リンソームストレス応答の破綻による神経・筋疾患発症機序の解明と超早期バイオマーカー開発	生化学 中村 修平
革新的がん医療実用化研究事業	がんゲノム・腫瘍内科学	講師	大田 正秀	MET 阻害剤に獲得耐性を示した MET 遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌に対するカボザンチニブの第 3 相試験	がんゲノム・腫瘍内科学 武田 真幸
難治性疾患実用化研究事業	脳神経内科学	医員	山田 七海	封入体筋炎の個別の病理像に直結した高品質な 2 細胞遺伝子発現解析による病態解明と治療標的の創出	発生・再生医学 栗本 一基
橋渡し研究プログラム	輸血部	講師	酒井 和哉	備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の医師主導治験	血液内科学 松本 雅則
	化学	教授	酒井 宏水		
	臨床研究センター	教授	笠原 正登		
		准教授	浅田 潔		
	小児科学	教授	野上 恵嗣		
肝炎等克服実用化研究事業	肝疾患相談センター	特任准教授	浪崎 正	肝硬変予後不良因子に対する vWF-ADAMTS13 制御に基づいた病態解析と治療開発	消化器内科学 吉治 仁志
		准教授	鍛冶 孝祐		
		講師	西村 典久		
	消化器内科学	学内講師	佐藤 慎哉		
		学内講師	辻 裕樹		
		助教	芝本 彰彦		
臨床研究センター	准教授	浅田 潔			
血液内科学	教授	松本 雅則			
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	教授 博士研究員	彦惣 俊吾 斎藤 能彦	劇症型心筋炎の予後改善を目指した病態解明・データベース構築・AI 診断ツールの研究開発	循環器内科学 尾上 健児
革新的がん医療実用化研究事業	小児科学	講師	石原 卓	小児から成人をシームレスに対象とした B 前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する前方視的臨床試験による標準治療の開発研究	特定非営利活動法人 日本小児がん研究グループ 康 勝好
肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝硬変症に対するリハビリテーション医療の確立、筋肉再生—肝臓修復機構の解析を通じた新たなバイオマーカーの探索	国立大学法人新潟大学 寺井 崇二
難治性疾患実用化研究事業	皮膚科学	教授	新熊 悟	スティーブンス・ジョンソン症候群および中毒性表皮壊死症の新規重症度予後予測スコアの開発とガイドラインへの反映	国立大学法人新潟大学 瀧 菜摘
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	准教授	尾上 健児	日本循環器研究コンソーシアムによる難治性心血管疾患のエビデンス創出	学校法人国際医療福祉大学 小室 一成
難治性疾患実用化研究事業	未来基礎医学	助教	五十嵐 規嘉	液・液相分離制御破綻に着目した筋萎縮性側索硬化症における運動ニューロン障害の分子病態解明に関する研究開発	国立大学法人徳島大学 斎藤 智英
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	医員	坂田 飛鳥	アンチトロンピン欠乏症に対する二重特異性 DNA アプタマー薬の開発	国立大学法人東京大学 吉本 敬太郎
臨床研究・治験推進研究事業	がんゲノム・腫瘍内科学	教授	武田 真幸	TP53 遺伝子変異を有する EGFR 遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌に対する治療耐性の克服を目指した研究	国立大学法人九州大学 岩間 映二
革新的先端研究開発支援事業 ユニットタイプ「プロテオスタシスの 理解と革新的医療の創出」研究開発領域	生化学	教授	中村 修平	細胞内膜動態によるプロテオスタシス制御の理解：健康長寿の実現に向けて	国立大学法人大阪大学 吉森 保
難治性疾患実用化研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	多系統萎縮症の自然歴と新規バイオマーカー開発に関する継続研究	国立大学法人北海道大学 松島 理明
エイズ対策実用化研究事業	小児科学	教授	野上 恵嗣	血友病が抱える課題の解決を目指した新規治療法・診療体制の創出	学校法人自治医科大学 大森 司

エイズ対策実用化研究事業	免疫学	教授	伊藤 利洋	ART 早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究	国立健康危機管理研究機構 エイズ治療・研究開発センター 照屋 勝治
肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	非代償期を含む C 型肝炎患者のインターフェロンフリー DAA 治療後の長期アウトカムを明らかにする研究	独立行政法人労働者健康安全機構 関西労災病院 竹原 徹郎
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	准教授	尾上 健児	オールジャパン心筋症ゲノムオミックスデジタルコホート研究	国立大学法人東京大学 医学部附属病院 野村 征太郎
ゲノム医療実現バイオバンク活用プログラム ゲノム医療実現推進プラットフォーム・先端ゲノム研究開発	循環器内科学	准教授	尾上 健児	マルチオミックス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現	国立大学法人東京大学 医学部附属病院 小室 一成
ゲノム医療実現バイオバンク活用プログラム 次世代医療基盤を支えるゲノム・オミックス解析	循環器内科学	准教授	尾上 健児	循環器疾患におけるシングルセルマルチオミックス層別化の実現	国立大学法人東京大学 医学部附属病院 小室 一成
次世代がん医療加速化研究事業	脳神経外科学	博士研究員	中澤 務	悪性脳腫瘍の高度治療抵抗性を克服する次世代 ADC の開発	国立大学法人東京科学大学 難治疾患研究所 持田 祐希
革新的がん医療実用化研究事業	泌尿器科学	教授	藤本 清秀	遺伝子多型による膀胱癌の BCG 膀胱内注入療法抵抗性予測 SNP 判定キットの開発	国立大学法人九州大学 塩田 真己
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	准教授	尾上 健児	小児から成人に移行する慢性心筋炎の診断基準策定のための実態調査	国立大学法人三重大学 今中 恭子
新興・再興感染症研究基盤創生事業 (多分野融合研究領域)	免疫学	講師	北畠 正大	抗ウイルス機能に優れた T 細胞を誘導する人工 T 細胞抗原の開発	国立大学法人熊本大学 本園 千尋
障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野)	精神医学	教授	岡田 俊	マイレジストリの縦断データを活用した新規治療法開発と事業承認	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 竹田 和良
成育疾患克服等総合研究事業	精神医学	教授	岡田 俊	児童・思春期におけるオンラインメンタルヘルスケアシステム (KOKOROBO-Junior) の開発と社会実装	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 竹田 和良
医工連携・人工知能実装研究事業	精神医学	博士研究員	牧之段 学	AI 技術を活用した統合失調症の早期診断医療機器プログラムの開発	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 橋本 亮太
革新的がん医療実用化研究事業	臨床研究センター	講師	倉上 弘幸	生細胞染色 CTS (Click-to-sense) 法を用いた子宮頸部病変に対する擦過細胞の迅速診断に関する研究	国立大学法人 大阪大学 多根井 智紀
成育疾患克服等総合研究事業	小児科学	助教	榊原 崇文	新生児低酸素性虚血性脳症の LOX-1 による重症度診断と中和抗体による治療法の開発	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 伊藤 雅之
革新的先端研究開発支援事業 インキュベータータイプ (LEAP)	生化学	教授	中村 修平	健康長寿実現に向けたオートファジー創薬と診断法開発	国立大学法人大阪大学 吉森 保

(3) 国立研究開発法人 科学技術振興機構

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
創造研究支援事業 (基金) 研究タイプ [創発的研究支援]	発生・再生医学	助教	長岡 創	[卵子の「質」構築を理解し、再建へとつなげる次世代卵子学の創出]	発生・再生医学 長岡 創
創造研究支援事業 (基金) 研究タイプ [創発的研究支援]	第二生理学	講師	坂野 公彦	[Vessel-on-a-chip とゲノム編集がもたらすヒト脈管疾患の解明]	第二生理学 坂野 公彦

(4) 総務省消防庁

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
消防防災科学技術研究推進制度	救急医学	教授	福島 英賢	AI 音声認識技術を活用した救急通報時の院外心停止認識支援技術の開発

(5) 関西スタートアップアカデミア・コアリション

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
大学発新産業創出基金事業 (基金)	役員	教育・研究 担当理事	嶋 緑倫	スタートアップ・エコシステム共創プログラム (プログラム推進費分)
大学発新産業創出基金事業 (基金)	口腔外科学	講師	柳生 貴裕	スタートアップ・エコシステム共創プログラム (研究開発費分)
大学発新産業創出基金事業 (基金)	血栓止血先端医学	准教授	辰巳 公平	スタートアップ・エコシステム共創プログラム (研究開発費分)

(5) 株式会社国際電気通信基礎技術研究所

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
安全保障技術研究推進制度委託事業	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	体内精密情報デジタルツインシステム

(6) 名張市

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
伊賀・奥宇陀地域脳疾患等医療体制整備に関する調査事業	脳神経外科学	博士研究員	中瀬 裕之	伊賀・奥宇陀地域脳疾患等医療体制整備に関する調査事業

(7) 公益財団法人エイズ予防財団

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
エイズ中核拠点病院相談事業	感染症内科学	教授	笠原 敬	HIV 感染者等保健福祉相談事業

(8) 奈良県

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
奈良県大学等発スタートアップ支援補助金	口腔外科学	講師	柳生 貴裕	抜かれた「歯」をムダにしない：医療廃棄物を資源へと変える流通プラットフォームの構築

(9) Karydo TherapeutiX 株式会社

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
安全保障技術研究推進制度委託事業	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	生命拡張システム

(10) その他 財団法人等

団体名等	所属	職名	氏名	研究課題名
公益財団法人 ソルト・サイエンス研究財団	解剖学第一	教授	井上 浩一	食塩がマイオカイン産生に与える影響
公益財団法人 G-7 奨学財団	生化学	講師	堀川 誠	線虫の冬眠様現象制御における mTORC 2 経路の機能解析
公益財団法人 中島記念国際交流財団	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	精神神経疾患の細胞内環境のダイナミクス理解とその制御
一般社団法人 日本アレルギー学会	皮膚科学	講師	宮川 史	Type 1 IFN derived from Ly6Chi monocytes suppresses type 2 inflammation in a murine model of atopic dermatitis
公益財団法人 ニッポンハム食の未来財団	臨床研究センター	講師	武内 治郎	野菜摂取と学童期の食物アレルギー：腸内細菌を含む網羅的コホート研究
公益財団法人 武田科学振興財団	生化学	教授	中村 修平	オートファジーの加齢変容による疾患発症の機序解明と治療応用
株式会社ヴァンティ	腎臓内科学	講師	江里口 雅裕	PD 患者支援のための在宅医療および訪問看護との医療連携の確立
一般社団法人 kizuna	脳神経内科学	講師	桐山 敬生	NMOSD 患者の臨床像と関連した補体制御因子抗体と疾患関連遺伝子の解析
公益財団法人 武田科学振興財団	生化学	助教	志摩 喬之	リンソーム損傷応答における TFEB の活性化機構と生理的意義の解明

# Winner Report

公益財団法人 武田科学振興財団	未来基礎医学	助教	五十樓 規嘉	ALS 原因タンパク質の異常凝集を阻害する亜鉛フィンガードメインの作用メカニズムの解明
公益財団法人 武田科学振興財団	生化学	講師	堀川 誠	線虫の低温休眠を制御するオートファジー遺伝子の機能解析
ジョンソンエンドジョンソン株式会社メディカルカンパニー	産婦人科学	医員	松岡 基樹	卵子を護る、未来を拓く：子宮内膜症における原始卵胞活性化の分子病態解明と次世代卵巣保護戦略
ジョンソンエンドジョンソン株式会社メディカルカンパニー	胸部・心臓血管外科学	助教	山梨 恵次	慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 合併肺癌患者への気管支拡張薬投与が術後呼吸機能や予後に及ぼす影響
公益財団法人 薬理研究会	健康管理センター	講師	山室 和彦	ネグレクトモデルマウスへのオキシトシンの前頭前野や行動特性への効果
一般社団法人 日本損害保険協会	解剖学第一	教授	井上 浩一	傷害時の骨格筋におけるリン酸化酵素 SGK1 の生理的意義
センチュリーメディカル株式会社	脳神経外科学	教授	中川 一郎	頸動脈プラークに対するスタチンはプラークを安定させるか -NIRS による分布の変化-
一般社団法人 日本損害保険協会	救急医学	医員	高倉 竜彦	高齢者交通外傷に対する迅速フィブリノーゲン測定による重症化リスクの早期評価
一般社団法人 日本血栓止血学会	血栓止血医学薬生物学	助教 (共同研究講座)	廻角 佑弥	血友病患者におけるマーカーレス歩行解析による下肢関節への機械的負荷評価の妥当性に関する観察研究
公益財団法人 マルボ・高木皮膚科学振興財団	皮膚科学	教授	新熊 悟	HHV-6 持続感染を認める薬剤過敏症候群患者の自己免疫疾患発症機序の解明
公益財団法人 内藤記念科学振興財団	生化学	教授	中村 修平	生殖と寿命のバランス制御を担う組織間コミュニケーションの分子基盤の解明
公益財団法人 小柳財団	オートファジー・抗老化研究センター	特任助教	岡元 拓海	健康寿命の充実および延長を目指した、リソソームストレス応答の分子基盤の解明
スミス・アンド・ネフュー株式会社	皮膚科学	教授	新熊 悟	創傷部位におけるヘモグロビンの蓄積が線維化と上皮化に及ぼす機序の解明
コヴィディエンジャパン株式会社	胸部・心臓血管外科学	助教	宮田 亮	多施設データベースを用いた 2cm 以下の末梢型 I 期非小細胞肺癌における縮小手術の適応に関する研究
ジンマー・バイオメット合同会社	リハビリテーション医学	教授	城戸 颯	ヒト iPS 細胞を用いた難治性骨折・偽関節に対する新規再生医療の開発
スミス・アンド・ネフュー株式会社	スポーツ医学	教授 (寄附講座)	小川 宏宗	統計的形状モデリングを活用した変形性膝関節症の病態メカニズムの解析
一般社団法人 日本研究皮膚科学会	皮膚科学	教授	新熊 悟	参加学会：ESDR・JSID
ジンマー・バイオメット合同会社	整形外科	准教授	谷口 晃	Peg 付き人工距骨を用いた人工足関節置換術の臨床成績調査
Society of Interventional Oncology 社	放射線診断・IVR 学	教授	田中 利洋	Development of a Next-Generation Drug Delivery System Utilizing Lipiodol in Combination with Immune Checkpoint Inhibitors in Hepatocellular Carcinoma
一般社団法人 日本血液学会	輸血部	講師	酒井 和哉	免疫性血栓性血小板減少性紫斑病における Inhibitor boosting の鎮圧を目指した革新的治療法の開発
公益財団法人 母子健康協会	発生・再生医学	助教	長岡 創	In vitro gametogenesis 技術を駆使して解き明かす卵母細胞発生
公益財団法人 住友電工グループ社会貢献基金	オートファジー・抗老化研究センター	特任助教	岡元 拓海	神経・筋疾患の発症機序の理解を目指したリソソームストレス応答分子機構の解明
公益財団法人 先進医療研究振興財団	輸血部	講師	酒井 和哉	ヘモグロビンベシクルの細網内皮系におけるクリアランス機構と免疫賦活作用の解析
一般社団法人 日本卵子学会	産婦人科学	医員	松岡 基樹	抗アンドロゲン作用を用いた子宮内膜症からの次世代卵巣保護戦略
公益財団法人 テルモ生命科学振興財団	発生・再生医学	教授	栗本 一基	形態-遺伝子発現連関に基づくヒト卵胞発育マーカーの開発
公益財団法人 内視鏡医学研究振興財団	胸部・心臓血管外科学	病院教授	濱路 政嗣	未来の内視鏡手術における、新しい吸収性素材を用いた自動縫合器の開発
一般社団法人 日本臨床移植学会	泌尿器科学	助教	堀 俊太	献腎移植待機患者登録および更新における適格基準の構築

## 未来への飛躍基金だより

### 紺綬褒章伝達式を執り行いました

未来への飛躍基金にご寄附をいただきました辻本達寛氏 (H12 大学院博士課程修了) と坂本光章氏 (H10 医学科卒業) に対し、紺綬褒章が授与されました。本学において伝達式を執り行い、細井理事長・学長から褒章と章記を伝達するとともに、ご寄附への感謝の気持ちをお伝えしました。12月の伝達式には、整形外科の河村教授と清水学内講師がお祝いに駆けつけてくださいました。



令和 7 年 7 月 10 日伝達式  
左から細井理事長・学長、辻本達寛氏



令和 7 年 12 月 23 日伝達式  
(前列) 細井理事長・学長、坂本光章氏 (後列) 河村教授、清水学内講師

紺綬褒章は国の褒章制度の一つで、公益のために私財を寄附された方に授与される褒章です。未来への飛躍基金に 500 万円以上のご寄附をいただいた方 (個人) 及び 1,000 万円以上のご寄附をいただいた団体は、紺綬褒章授与の対象となります。あらかじめ分納のお申し出をいただいたご寄附も含まれます。未来への飛躍基金にご寄附をいただき、紺綬褒章申請を希望される場合は、分納のお申し出と合わせて総務広報課までお問合せください。

【奈良県立医科大学 総務広報課 未来への飛躍基金】

TEL : 0744-22-3051 (内線 2803) E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.narmed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！



# 寄附者ご芳名

## 「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました

今号では令和7年10月～令和7年12月にご寄附いただいた方々のご芳名を掲載しております。心から御礼申し上げます。

### 【個人】

#### ◆100万円以上

大鶴 昇 様 北口 勝康 様 辻本 達寛 様 仲澤 信江 様  
本多 清志 様 水野 滋章 様 矢野 寿一 様

#### ◆10万円以上30万円未満

井内 清美 様 五十嵐 稔子 様 石澤美保子 様 石田 仁志 様  
泉 哲石 様 茨木 透 様 植村 信子 様 上山 健一 様  
梅本 典江 様 江里口雅裕 様 岡田 治 様 岡田 定規 様  
小川 宗宏 様 粕田 承吾 様 川口 昌彦 様 菊地 健夫 様  
北原 糺 様 木下 國浩 様 木村 茂和 様 佐伯 圭吾 様  
柴田 芳宏 様 杉江 美穂 様 中川 一郎 様 二階堂雄次 様  
西川 義弘 様 福山由美子 様 増田 佳亮 様 松井 一哲 様  
丸山 直樹 様 村尾 佳則 様 若月 幸平 様

掲載を希望されない寄附者様 20名

#### ◆10万円未満

浅川 勇雄 様 天野 雄介 様 井内孝太郎 様 石飛 悦子 様  
岡安 唯 様 北島 正大 様 北村 可織 様 小竹久美子 様  
小林 恭代 様 柴田 瑤子 様 白樫恵里子 様 高木 宏哲 様  
田中 秀明 様 土井 涉 様 富家 茂人 様 鳥居 豊橋 様  
西澤 秀美 様 野村 泰充 様 古橋 直樹 様 堀江妥永子 様  
本田 孝雄 様 松平 崇 様 宮内 利拡 様 山下 恵子 様

掲載を希望されない寄附者様 40名

#### ◆30万円以上100万円未満

稲垣 有佐 様 井上 雄二 様 長村 徹 様 笠原 正登 様  
河村 健二 様 菊川 政次 様 吉川 公彦 様 倉井 信夫 様  
小林 浩 様 小山 文一 様 鹿野 信吾 様 庄 雅之 様  
城谷 敬子 様 城谷 知彦 様 辛 龍文 様 杉江 和馬 様  
高倉 義典 様 武内 治郎 様 田畑 尚一 様 鶴屋 和彦 様  
中谷 晃 様 中西 永吉 様 中林 仁美 様 橋本 俊雄 様  
橋本 浩 様 畠山 金太 様 廣橋 里奈 様 藤本 清秀 様  
細井 裕司 様 水野 真理 様 八木 正躬 様 安田 周司 様

掲載を希望されない寄附者様 1名

#### ◆金額の公表を希望されない寄附者様

石原 月彦 様 五十川雅裕 様 井上 伸 様 井上 正純 様  
今村 知明 様 裏山 悟司 様 太田 一郎 様 川上あずさ 様  
城戸 顕 様 工藤 利彩 様 齋藤 昌宏 様 酒井 恭子 様  
阪本 晃 様 沢田 泉 様 杉山 友悦 様 竹川 隆 様  
辰巳 公平 様 鶴田 啓亮 様 西村 忠己 様 二宮 高宏 様  
橋爪 隆 様 前川 尚宜 様 三浦 太士 様 宮崎 敬太 様  
室 繁郎 様 勇井 克也 様 吉川真由美 様 吉治 仁志 様

### 【法人・企業】

#### ◆30万円以上100万円未満

医療法人社団 貞俊会 様

## 未来への飛躍基金への感謝 \*海外臨床実習(2025年度活動報告より)

未来への飛躍基金では、海外臨床実習での交通費、宿泊費、実習費の一部を助成しています。令和7年4月～5月の4週間をドイツに臨床実習留学したお二人をご紹介します。寄附者の皆様からのご支援に心から感謝申し上げます。

### Medizinische Hochschule Hannover

医学科6年生 大井 彩

この度は海外実習に際し多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。ご助成により、異なる医療制度や文化に触れ、視野を広げる貴重な機会を得ることができました。今回の経験を今後の学びや臨床に活かしてまいります。心より感謝申し上げます。



主病棟と中庭

### Knappschaft Kliniken Universitätsklinikum Bochum

医学科6年生 山名 智尋

この度は海外実習の費用をご支援いただき、誠にありがとうございました。4週間もの間、臨床実習を無事行うことができたのは、未来への飛躍基金からのご支援のおかげです。言葉が分からず困難に感じることもありましたが、ドイツでできた友人の助けも借りながら、多くの学びを得ることができました。この経験を糧にこの先も努力を続ける所存です。



実習先の病院前で

## 公開講座情報

### 令和7年度地域医療研究講演会

日 時：3月12日(木) 18時30分～(18時開場予定)

テ ー マ：「私の両極端の経歴－地域医療と血栓止血研究」

開催方式：対面参加及びWEB配信 講演会 (Zoom ウェビナーを使用するハイブリット講演会)

場 所：奈良県立医科大学附属病院 臨床研修センター1階 カンファレンス室

講演者：奈良県立医科大学 血液内科学講座 教授 松本 雅則 先生

対象者：本学・附属病院職員、医療施設医療従事者、大学院生、学生、他、関心のある方

お問い合わせ：地域医療学講座 内線2441

## Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2025年	9月15日	日本経済新聞	化学 教 授 酒井 宏水 献血120万人分減り 血液足りなくなる？ 研究進む人工血液
	10月26日	読売新聞 病院の実力 (奈良編)	脳神経内科学 教 授 杉江 和馬 神経難病 根治期待の新薬も 適切な治療 早期開始を
	11月6日	朝日放送テレビ news おかえり & YouTube 傑作選	化学 教 授 酒井 宏水 血液内科学 教 授 松本 雅則 奈良県立医科大学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
	11月18日	奈良新聞	寄附講座スポーツ医学 教 授 (寄附講座) 小川 宗宏 膝のけが、どう診断？奈良リハビリ専門学校でスポーツ医学講座 県立医大 小川教授が講義、実演
	12月1日	メディカル・プリンシプル社 ドクターズマガジン 2025年12月号	公衆衛生学 教 授 今村 知明 ドクターの肖像/混沌とした世界を照らす一筋の光明 公衆衛生にむき合い、国を癒す人生を歩む医師
	12月2日	NHK 津放送局 まるっと！みえ	公衆衛生学 教 授 今村 知明 三重県内12市町の公立病院が赤字 背景に人件費増や物価高
	12月4日	日経トレンディ 2026年1月号	化学 教 授 酒井 宏水 血液内科学 教 授 松本 雅則 人工赤血球製剤 長期保存を可能としたことで患者の命だけでなく病院経営も救う
	12月5日	奈良テレビ ならフライデー9	脳神経内科学 教 授 杉江 和馬 循環器内科学 教 授 彦惣 俊吾 奈良県脳卒中・心臓病等総合支援センター事業の一環として、循環器(脳および心臓)疾患に関する啓発を実施
	12月9日	日本テレビ ゼ！世界仰天ニュース	名 誉 教 授 浅田 秀夫 キス病 伝染性単核球症についてコメント
	12月10日	TIME (米国)	疫学・予防医学 特任准教授 大林 賢史 光の健康影響について解説
	12月13・14日	共同通信 他23社	血液内科学 教 授 松本 雅則 止血障害の治療薬開発へ 奈良県立医大とベンチャー
	12月14日	奈良新聞・伊勢新聞	血液内科学 教 授 松本 雅則 県立医大とベンチャー共同開発 止血障害の治療薬開発へ
	12月14日	奈良新聞	肝疾患相談センター 特任准教授 浪崎 正 奈良マラソン2025 無料の肝炎ウイルス相談 県肝疾患相談センター
	12月16日	奈良新聞	消化器内科学 教 授 吉治 仁志 奈良マラソン2025 県立医大の吉治教授ら 肝炎知る健康トーク
2026年	1月1日	奈良新聞	睡眠医療・呼吸管理センター センター長 山内 基雄 睡眠習慣の改善、睡眠医療・呼吸管理センターについてインタビュー
	1月15日	奈良テレビ ゆうドキッ！	理 事 (教育・研究担当) 副 学 長 嶋 緑倫 県立医科大学 次期理事長に副学長の嶋 緑倫さん
	1月16日	奈良新聞 朝日新聞 読売新聞	理 事 (教育・研究担当) 副 学 長 嶋 緑倫 県立医大 理事長に嶋氏任命 「未来の医療創造」
	1月17日	産経新聞 日本経済新聞	理 事 (教育・研究担当) 副 学 長 嶋 緑倫 県立医大 理事長に嶋氏任命 「未来の医療創造」
	1月18日	NHK 奈良 ならナビ	化学 教 授 酒井 宏水 血液内科学 教 授 松本 雅則 奈良県立医科大学附属病院で行われる人工赤血球の研究と治験の様子を紹介

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

### 編集後記

年度末に向けて忙しい時期となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。学報では、教職員の皆様からの記事を随時募集しています。掲載をご希望の方は総務広報課までご連絡ください。

